

IV 調査結果の詳細

一 中学生・高校生 一

(1) 食育の認知度

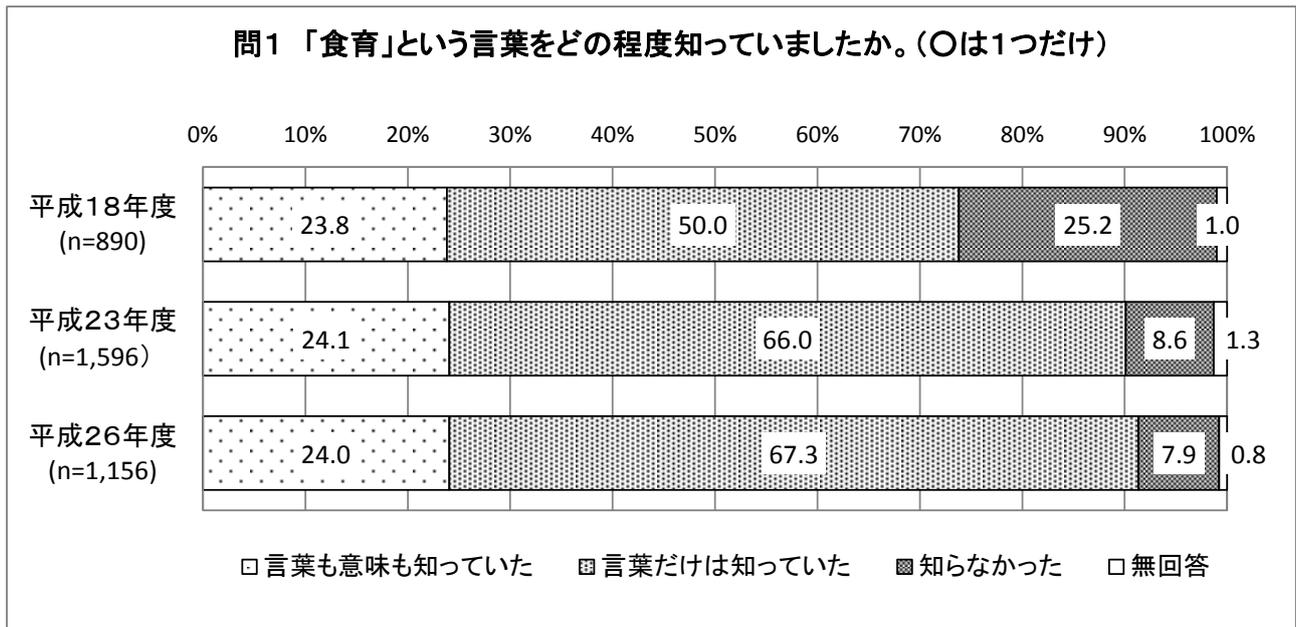
1 「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」が9割

食育という言葉をもの程度知っていたか聞いたところ、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていた」の合計）が91.3%を占め、平成23年度調査の水準を維持している。

(図表Ⅱ-1-1)

図表Ⅱ-1-1



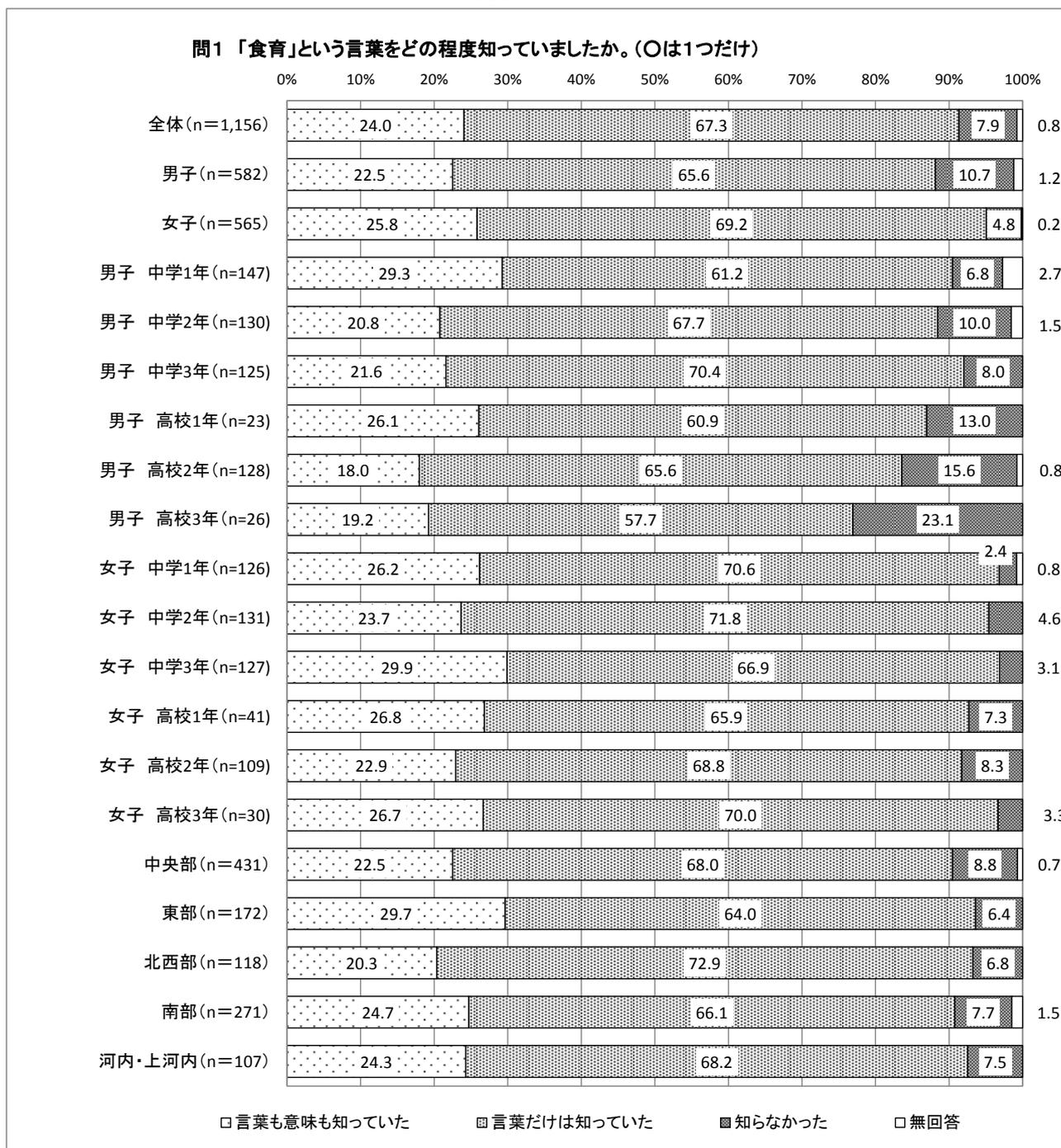
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）の割合は、女子（95.0％）が男子（88.1％）よりも約7％高くなっている。

性・学年別では、女子は全学年において、「知っていた」の割合が9割を超えており、「中学1年女子」と「中学3年女子」では96.8％に上っているが、高校生の男子については、女子や中学生の男子に比べると低くなっている。

居住地区別では、特に大きな差は見られない。（図表Ⅱ－1－2）

図表Ⅱ－1－2



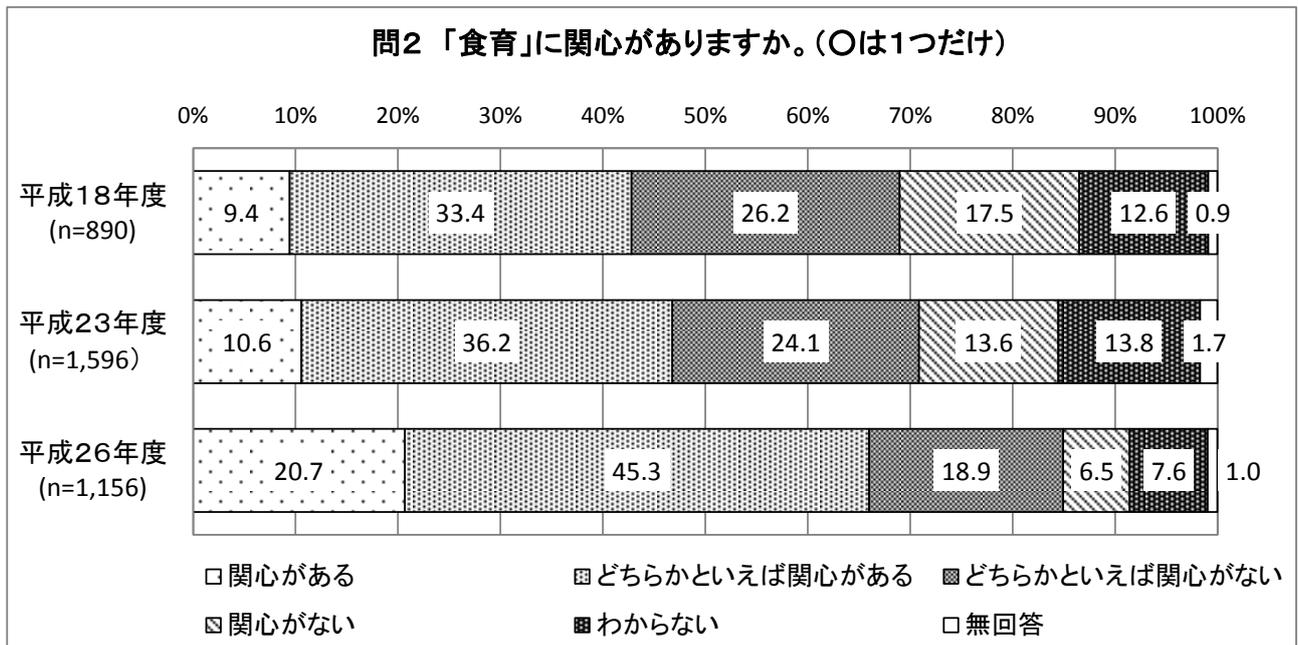
(2) 食育の関心度

2 「食育」に関心がありますか。

◆「どちらかといえば関心がある」がほぼ半数

食育に関心があるか聞いたところ、「どちらかといえば関心がある」(45.3%)がほぼ半数を占めており、平成23年度調査から約9%増加している。また、「関心がある」(20.7%)の割合も平成23年度調査(10.6%)から増加している。(図表Ⅱ-1-3)

図表Ⅱ-1-3



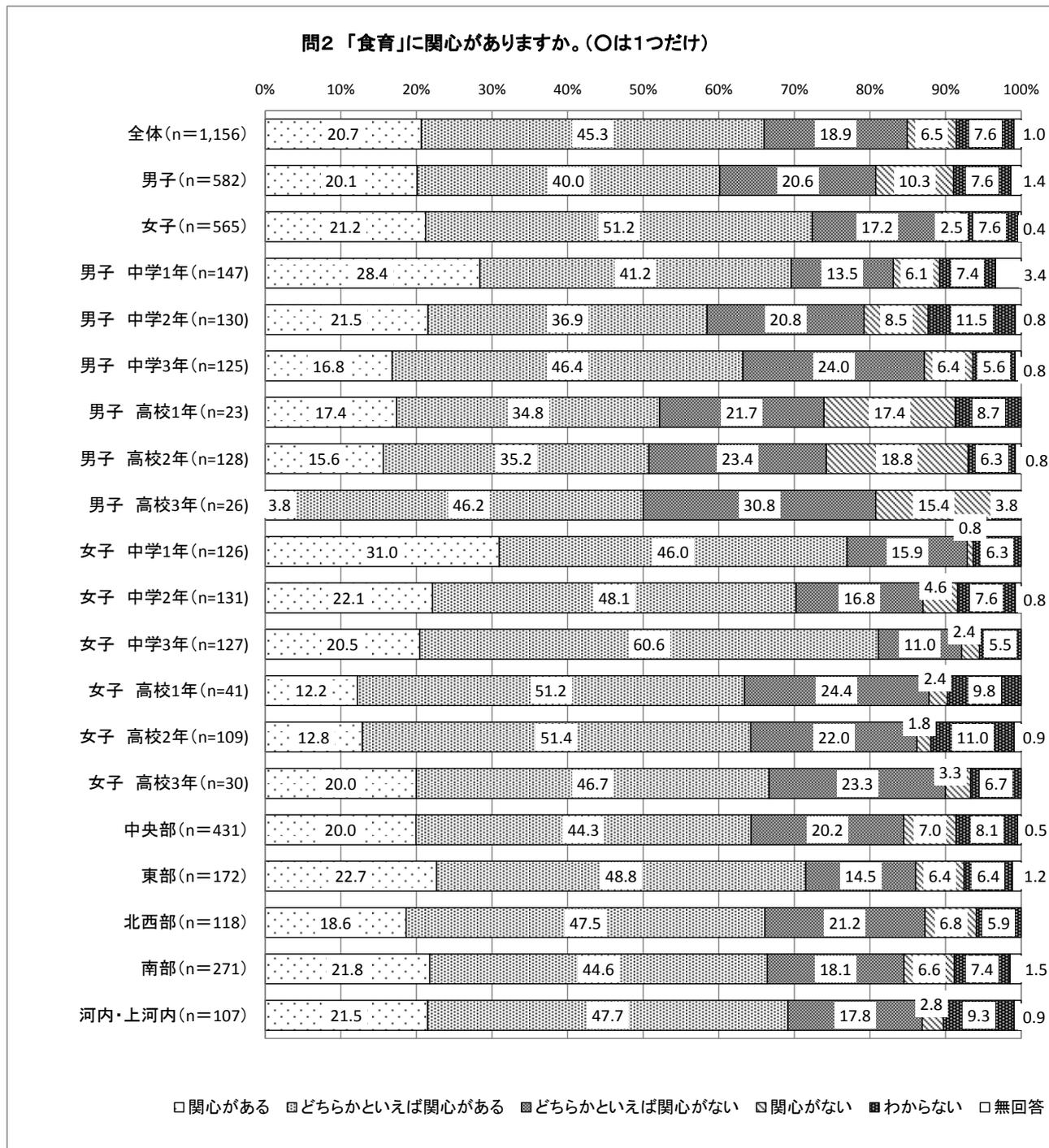
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）の割合は、女子（72.4%）が男子（60.1%）よりも約12%高くなっている。

性・学年別では、男女とも中学生に比べ、高校生の「関心がある」の割合が低く、特に「高校3年男子」（50.0%）では半数となっている。

居住地区別では、他地区に比べ「東部」で、「関心がある」の割合が若干、高くなっている。（図表Ⅱ－1－4）

図表Ⅱ－1－4



(3) 食生活の問題点の有無

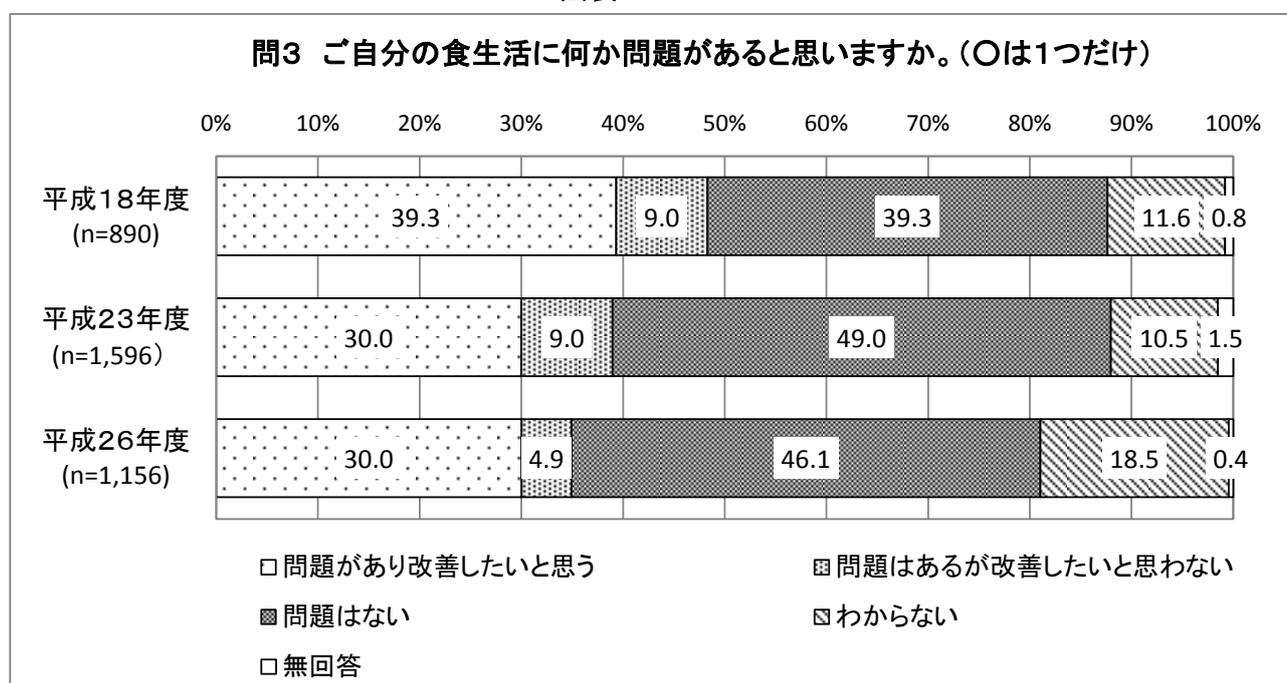
3 自分の食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題はない」が約4割

自分の食生活に問題があるか聞いたところ、「問題はない」(46.1%)が4割強を占めており、平成18年度調査(39.3%)から増加している。逆に、「問題があり改善したいと思う」(30.0%)は3割に留まり、「問題はあるが改善したいと思わない」(4.9%)を合わせた「問題あり」は34.9%となり、平成18年度調査から約13%減少している。

一方、「わからない」(18.5%)が平成23年度調査(10.5%)からは8%増加している。(図表Ⅱ-2-1)

図表Ⅱ-2-1



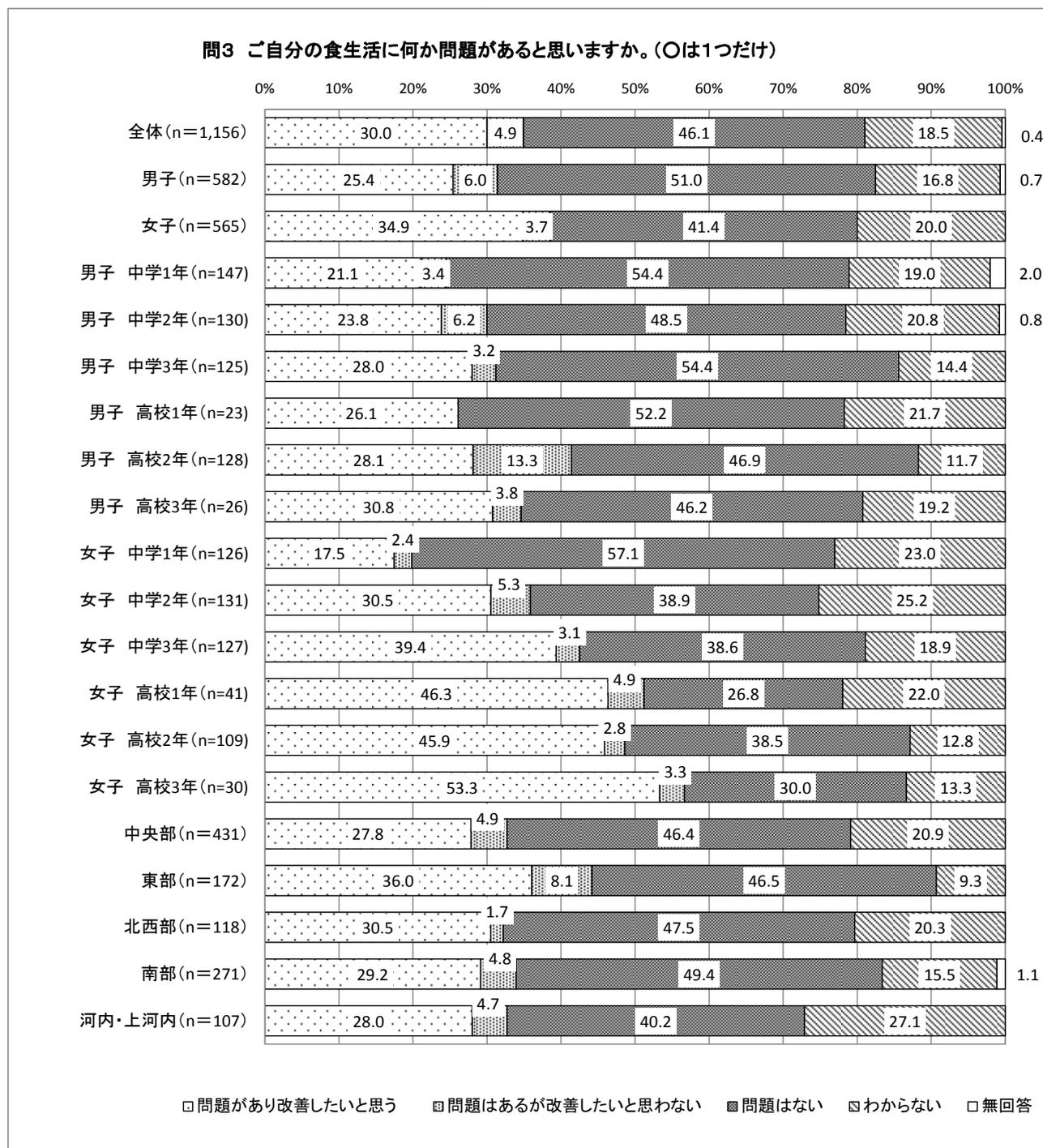
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「問題あり」（「問題があり改善したいと思う」と「問題はあるが改善したいと思わない」の合計）の割合は、女子（38.6％）が男子（31.4％）よりも約7％高くなっている。

性・学年別では、女子では「高校3年」（56.6％）、男子では「高校2年」（41.4％）が「問題あり」と回答している割合が、他学年と比べて高い。一方、「中学1年女子」で「問題はない」の割合が高く、57.1％で最も高くなっている。

居住地区別では、「東部」が他地区に比べ「問題あり」の割合が高くなっている。（図表Ⅱ－2－2）

図表Ⅱ－2－2



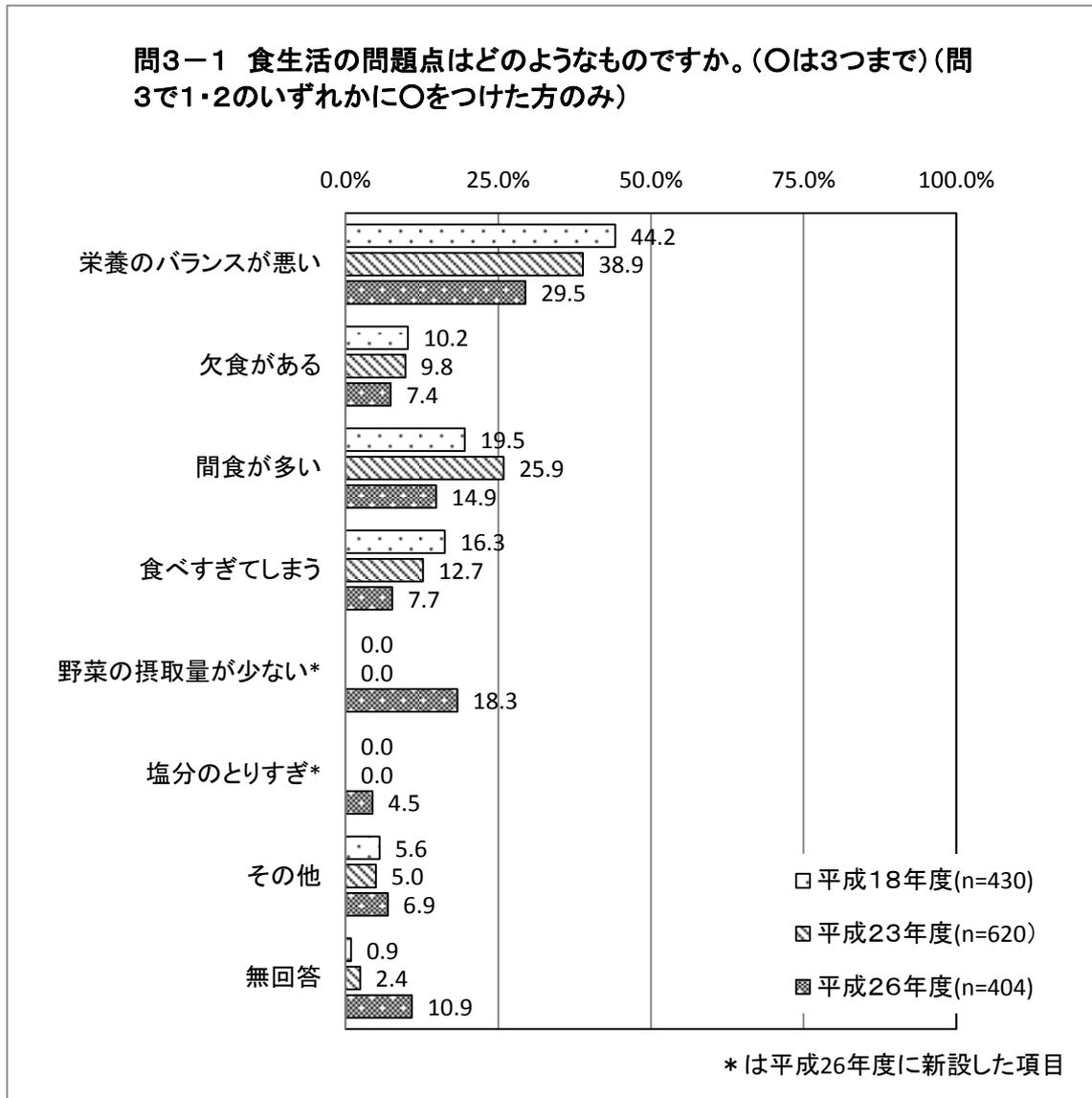
(3-1) 食生活の問題点の有無

3-1 食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「栄養のバランスが悪い」が減少

前問で、食生活に「問題あり」と答えた人に問題点を聞いたところ、「栄養のバランスが悪い」(29.5%)が約3割を占め、最も高くなっているが、平成23年度調査からは減少している。次いで「野菜の摂取量が少ない」(18.3%)、「間食が多い」(14.9%)となっている。(図表Ⅱ-2-3)

図表Ⅱ-2-3



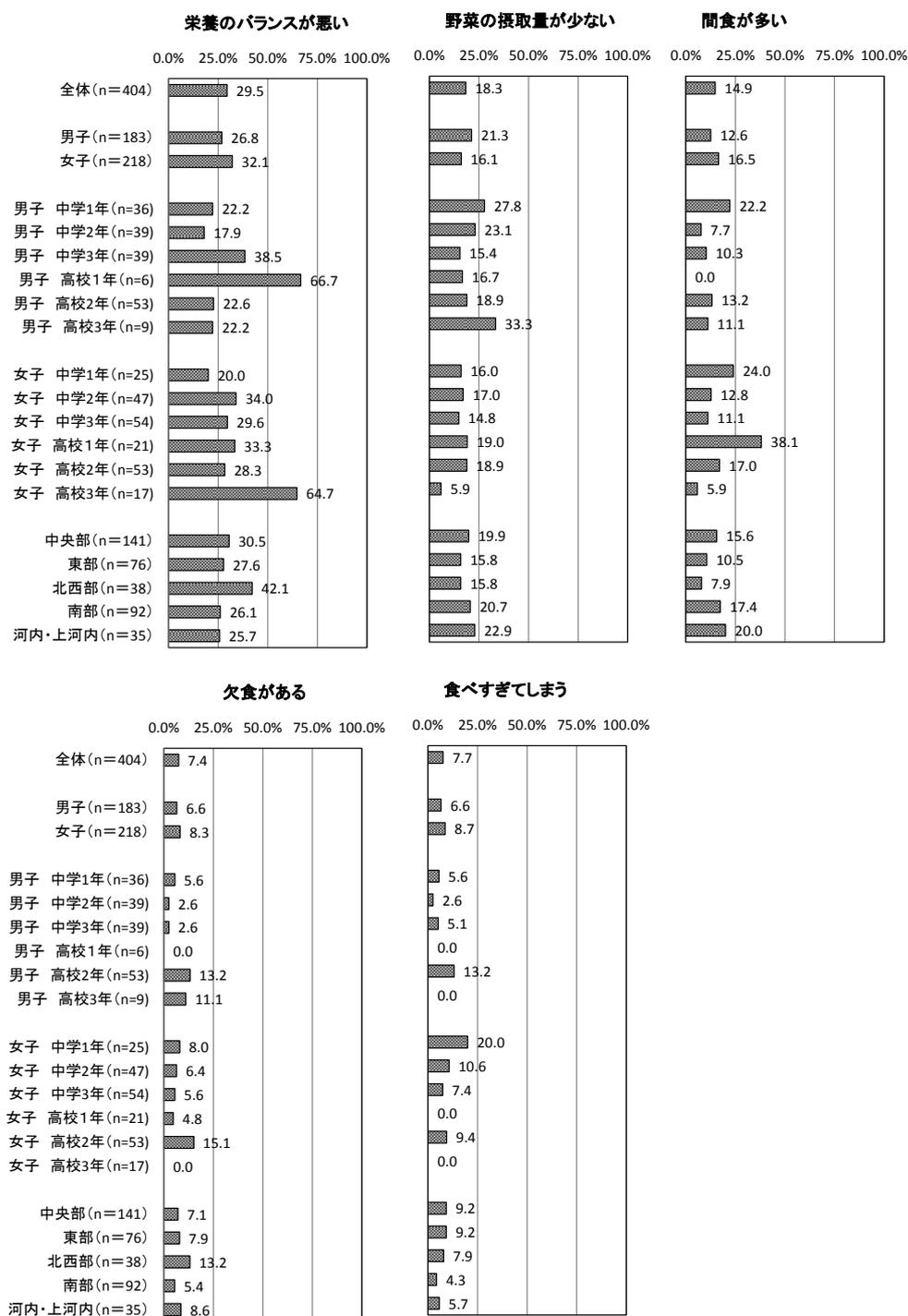
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女とも「栄養のバランスが悪い」が多くなっており、女子(32.1%)は、男子(26.8%)より約5%高くなっている。また、男子では、「野菜の摂取量が少ない」(21.3%)で、女子(16.1%)よりも高くなっている。

性・学年別では、「栄養のバランスが悪い」の割合で「高校3年女子」(64.7%)が最も高くなっている。また、男女ともに「高校2年」で「欠食がある」の割合が高くなっている。

居住地区別に見ると、「北西部」では、他地区に比べ「栄養バランスが悪い」、「欠食がある」の割合が高くなっている。(図表Ⅱ-2-4)

図表Ⅱ-2-4



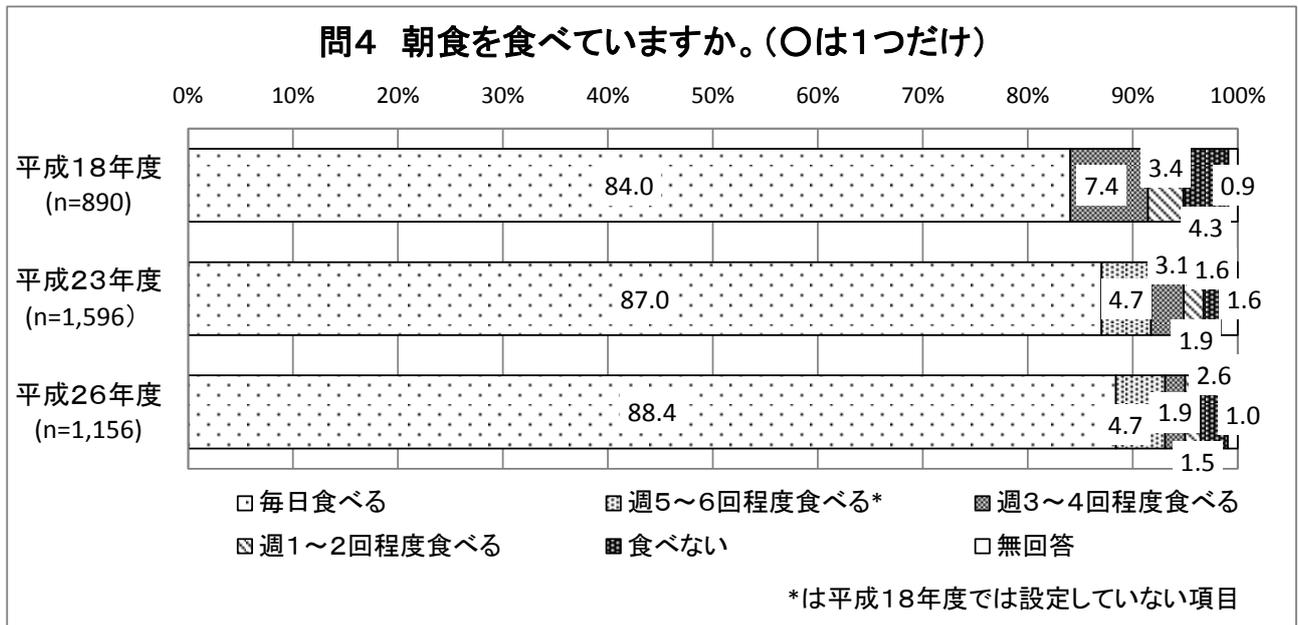
(4) 朝食摂取度

4 朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が8割超

朝食の摂取状況は、「毎日食べる」が88.4%と最も高く、平成23年度調査の水準と変わらないが、平成18年度調査から経年的に比較すると増加傾向である。また、「週3～4回食べる」(1.9%)、「週1～2回食べる」(1.5%)は微減傾向にあるが、「食べない」の割合は微増している。(図表Ⅱ-2-5)

図表Ⅱ-2-5



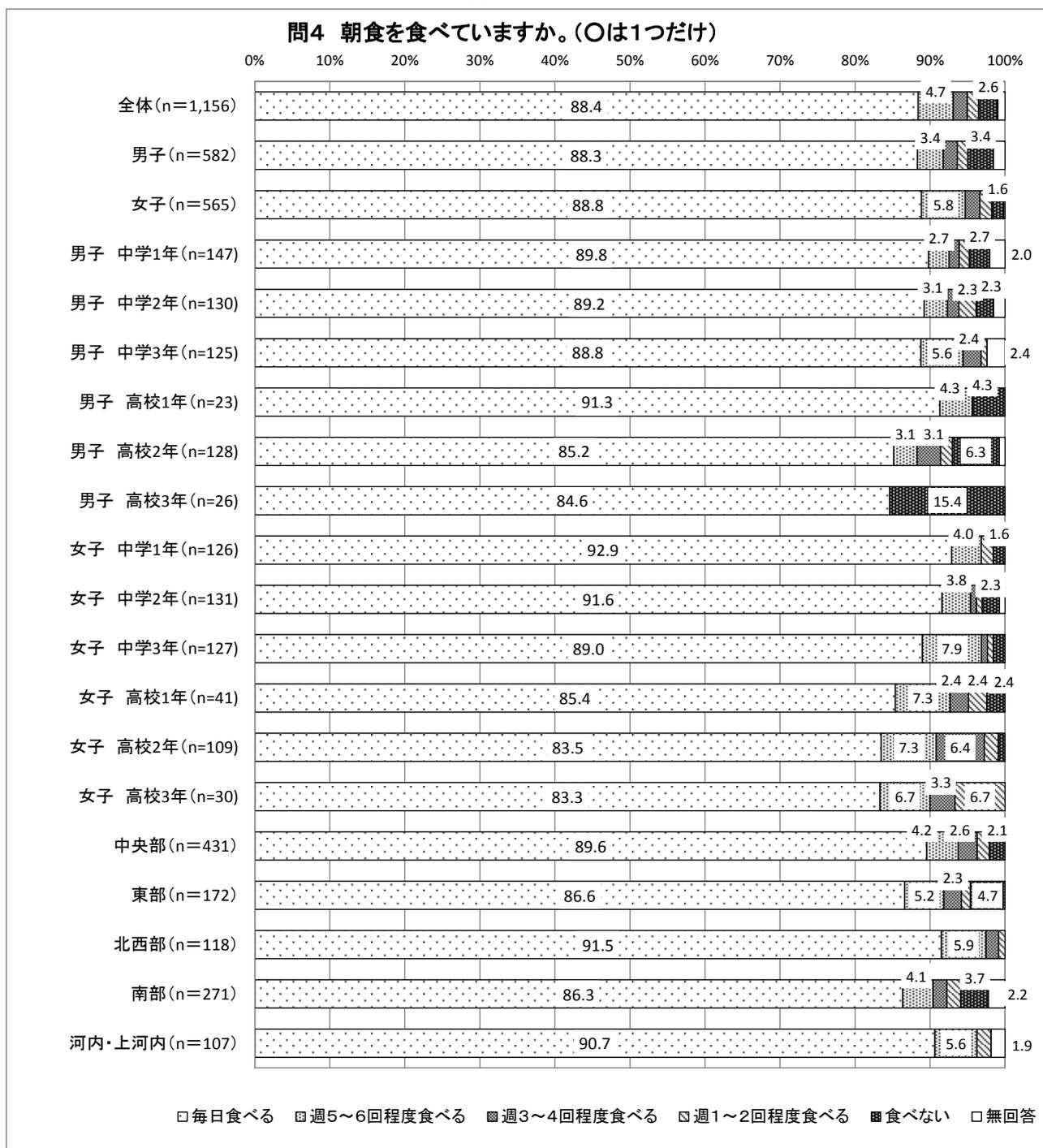
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、大きな差は見られない。

性・学年別では、「高校3年男子」の「食べない」の割合が15.4%と他学年に比べ高くなっている。一方、「中学3年男子」と「高校3年女子」では「食べない」と回答した人はいなかった。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。また「北西部」,「河内・上河内」では、「食べない」と回答した人はいなかった。(図表Ⅱ-2-6)

図表Ⅱ-2-6



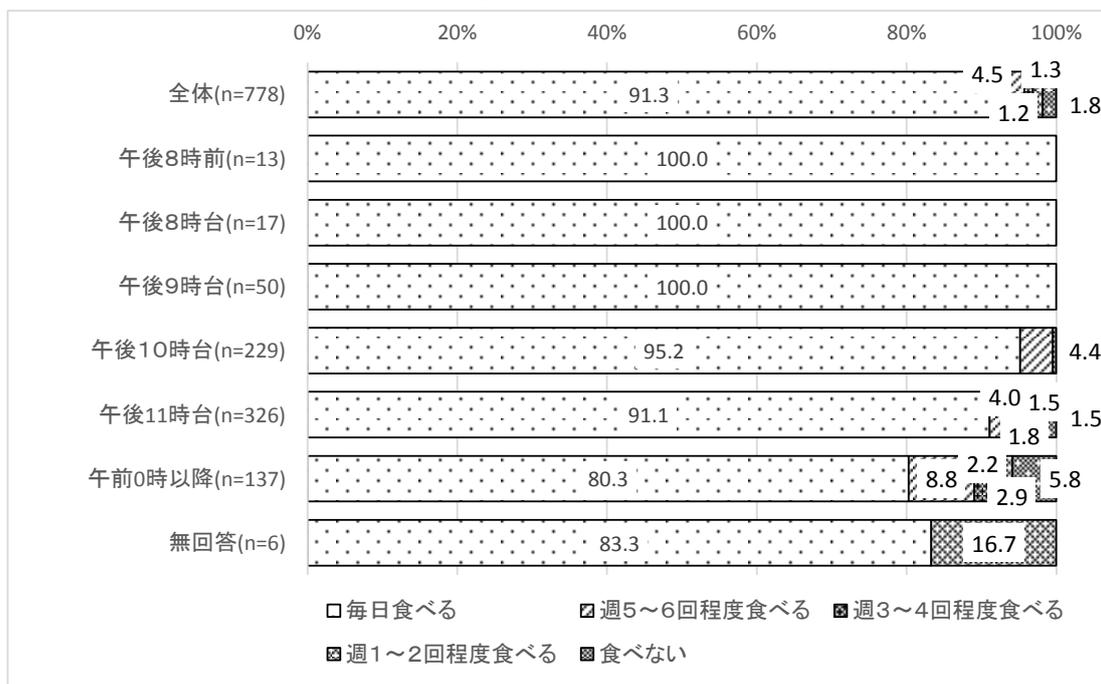
【朝食の摂取状況と就寝時刻の関係】

◆就寝時刻が遅い方が、朝食を「毎日食べる」人が少ない傾向

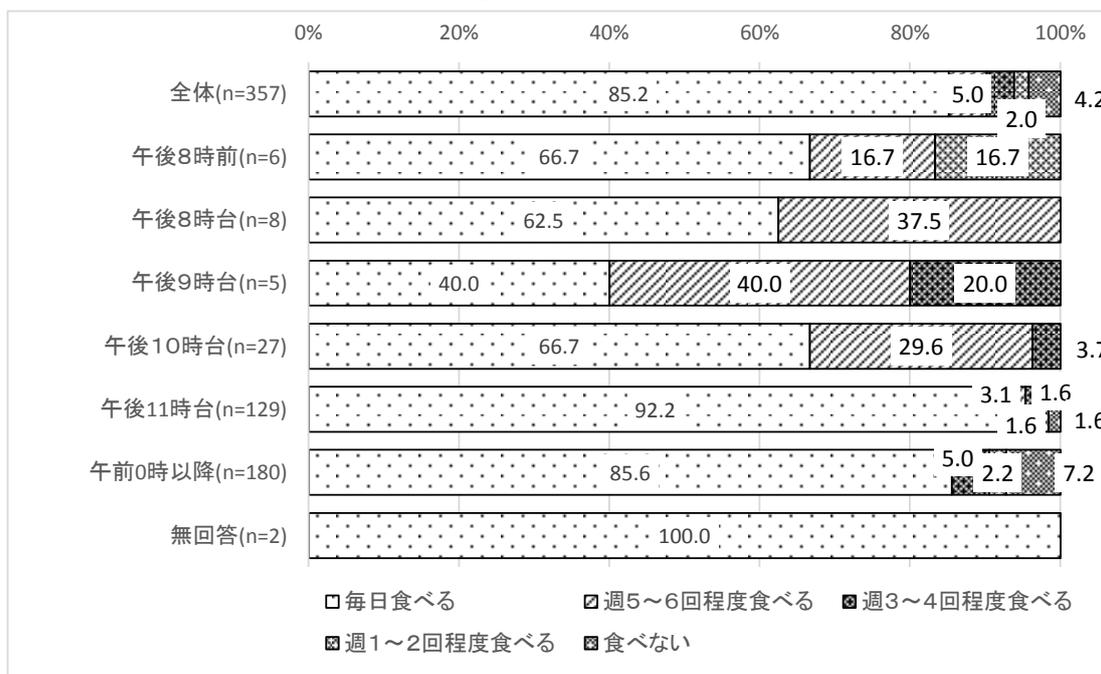
朝食の摂取状況と就寝時刻*の関連性を分析したところ、中学生の就寝時刻「午前0時以降」では、朝食を「毎日食べる」が80.3%と、就寝時間が早い人と比べて低い傾向となっている。(図表Ⅱ-2-7)

また、高校生でも中学生同様に、「午前0時以降」では、朝食を「毎日食べる」が85.6%と、就寝時間が早い人と比べて低い傾向となっている。(図表Ⅱ-2-8)

図表Ⅱ-2-7



図表Ⅱ-2-8



*就寝時刻については144ページを参照のこと

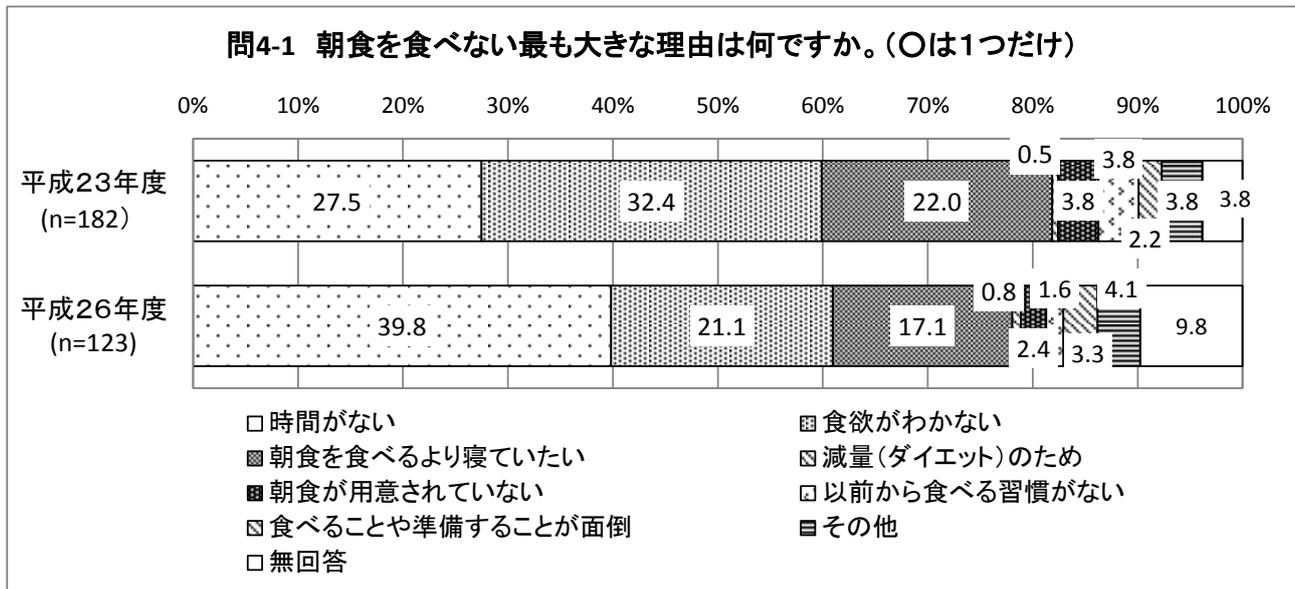
(4-1) 食べない理由

4-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「時間がない」が4割

前問で朝食を毎日食べない、もしくは食べない日もあると答えた人に、朝食を食べない理由を聞いたところ、「時間がない」(39.8%)が約4割を占め、平成23年度調査より約12%増加している。次いで、「食欲がわからない」(21.1%)、「朝食を食べるより寝ていたい」(17.1%)となっている。(図表Ⅱ-2-9)

図表Ⅱ-2-9



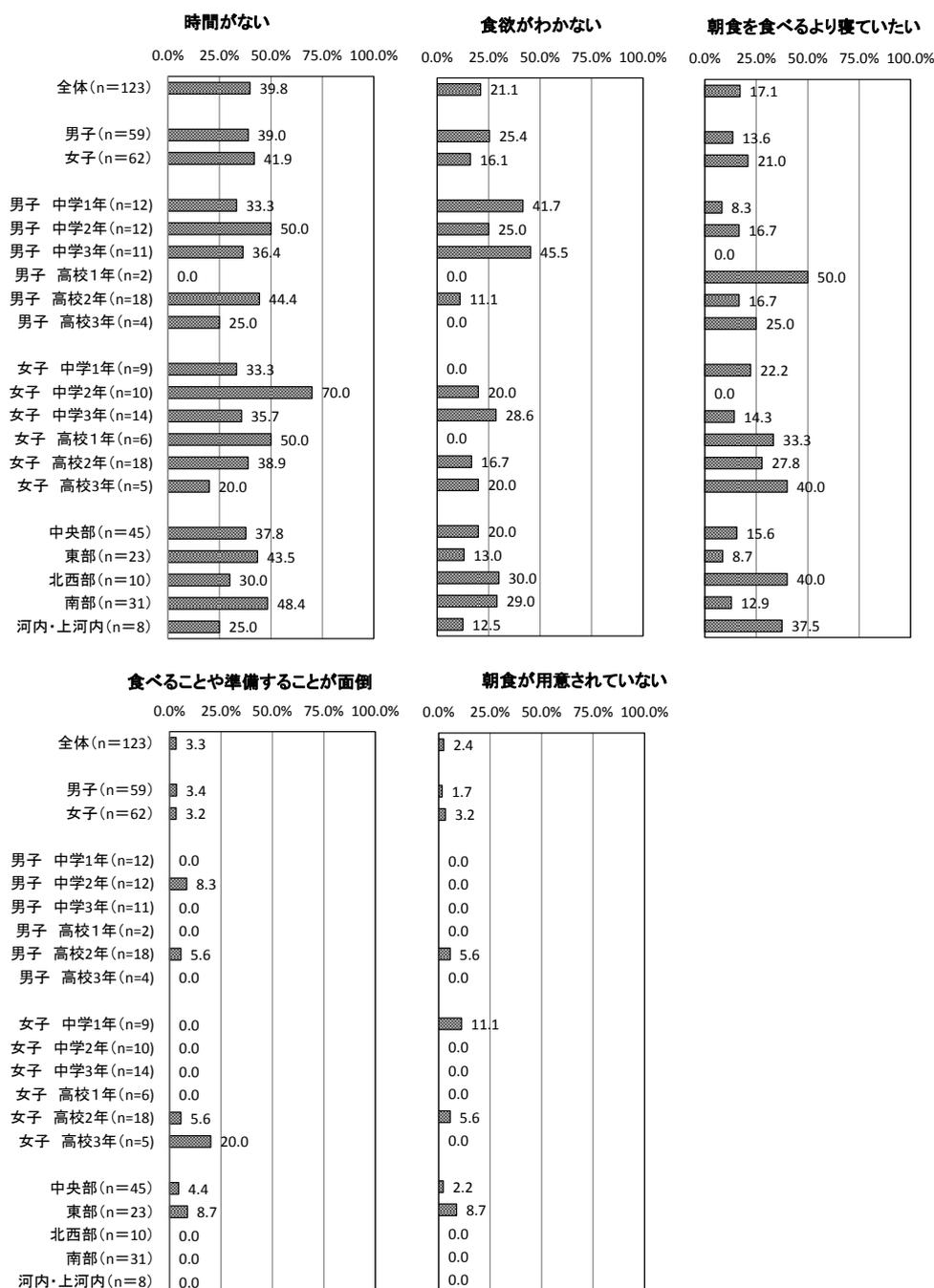
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女ともに「時間がない」の割合が最も高くなっており、次いで、男子では「食欲がわからない」、「朝食を食べるより寝ていたい」、女子では「朝食を食べるより寝ていたい」、「食欲がわからない」と続く。

性・学年別では、「中学2年女子」で「時間がない」(70.0%)が7割を占め、「中学3年男子」では「食欲がわからない」(45.5%)が4割強となっている。

居住地区別では、「南部」の「時間がない」(48.4%)と「北西部」の「朝食を食べるより寝ていたい」(40.0%)の割合が他地区に比べ高くなってている。(図表Ⅱ-2-10)

図表Ⅱ-2-10



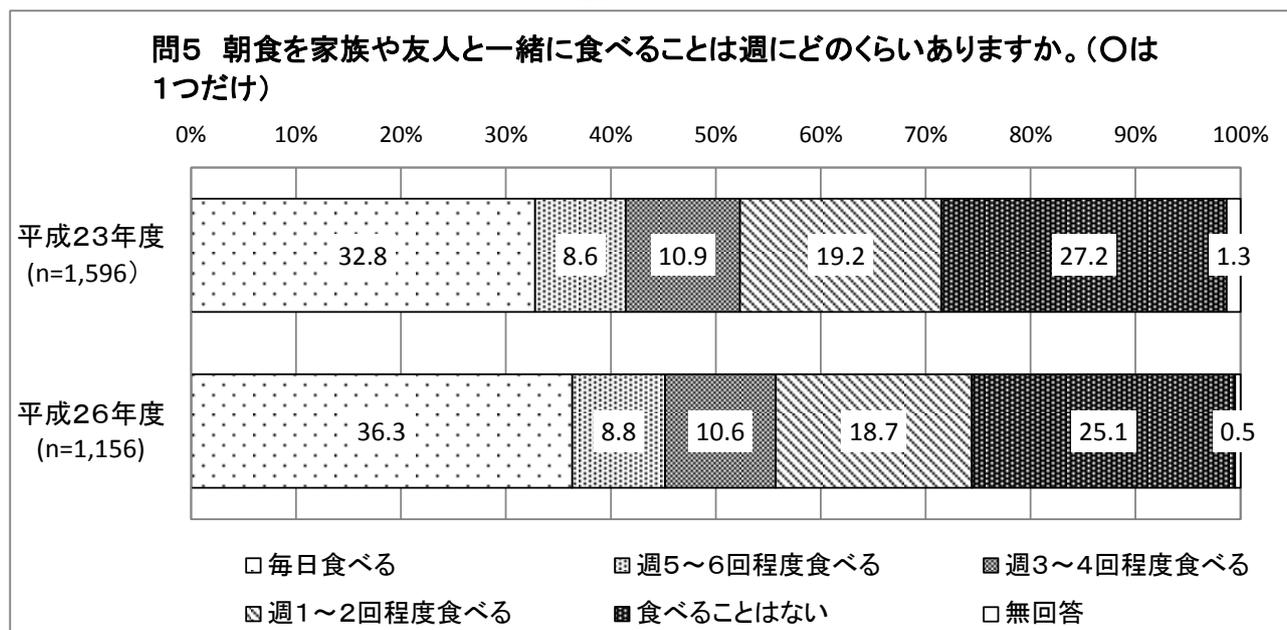
(5) 家族との朝食（共食）

5 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が4割弱

朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「毎日食べる」（36.3%）が4割弱を占め、平成23年度調査より3.5%増加している。一方、「食べることはない」と回答している人が25.1%となっており、4人に1人が朝食を1人で食べている状況である。（図表Ⅱ-2-11）

図表Ⅱ-2-11



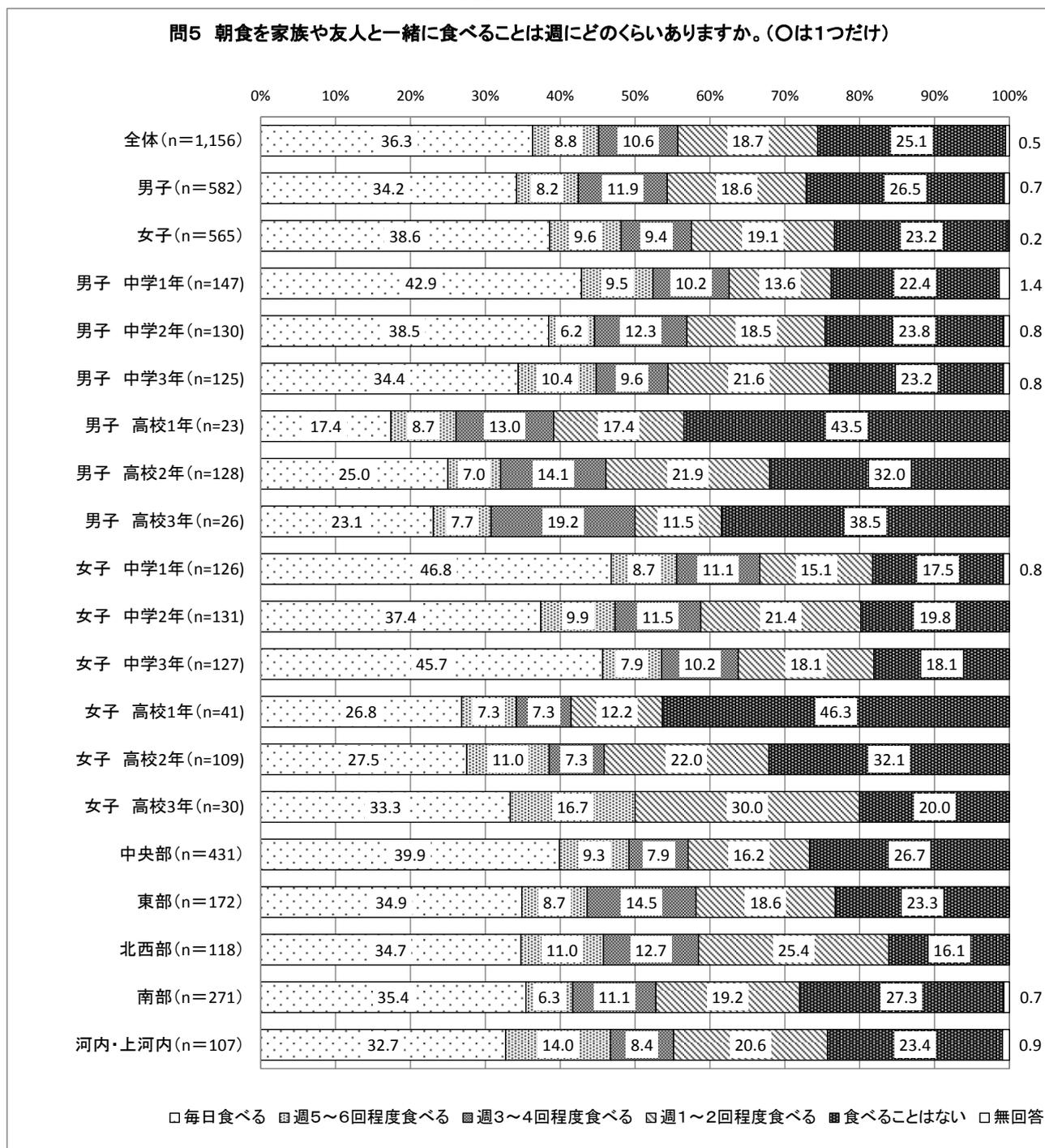
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「食べることはない」の割合で、男子（26.5%）が女子（23.2%）よりも若干高くなっている。

性・学年別では、男女ともに「高校1年」で「毎日食べる」の割合が最も低くなっている。

居住地区別で見ると、「河内・上河内」（32.7%）で「毎日食べる」の割合が、他地区に比べ低く、「食べることはない」の割合は、「北西部」（16.1%）で他地区に比べて低くなっている。（図表Ⅱ-2-12）

図表Ⅱ-2-12



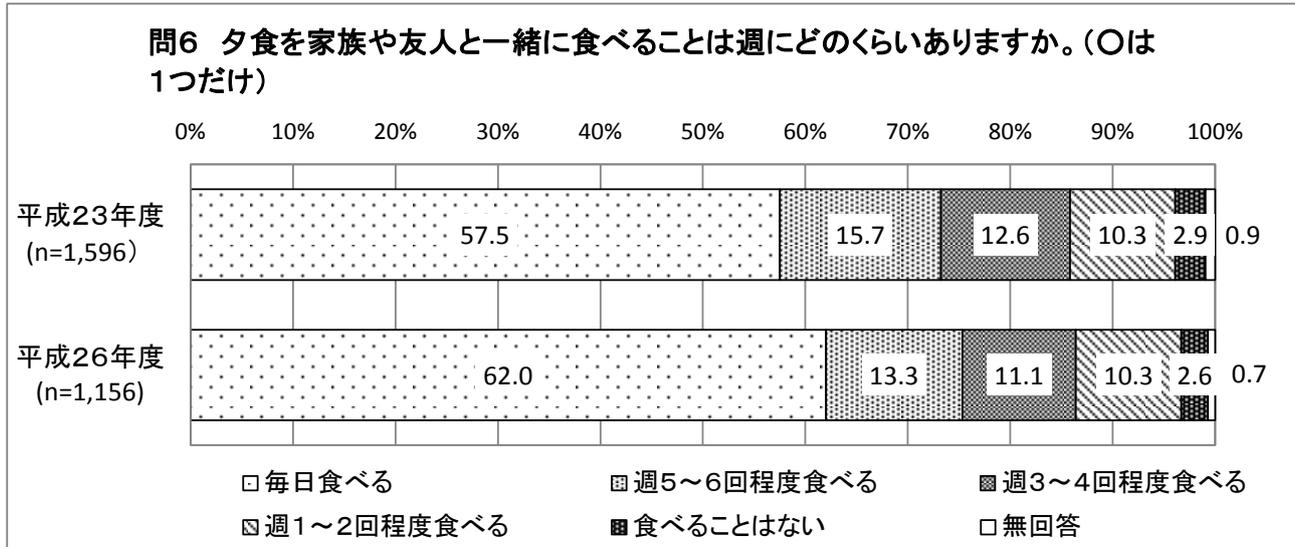
(6) 家族との夕食（共食）

6 夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割

夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「毎日食べる」（62.0%）が約6割で平成23年度調査より4.5%増加しており、「食べることはない」と答えた人は2.6%に留まっている。（図表Ⅱ－2－13）

図表Ⅱ－2－13



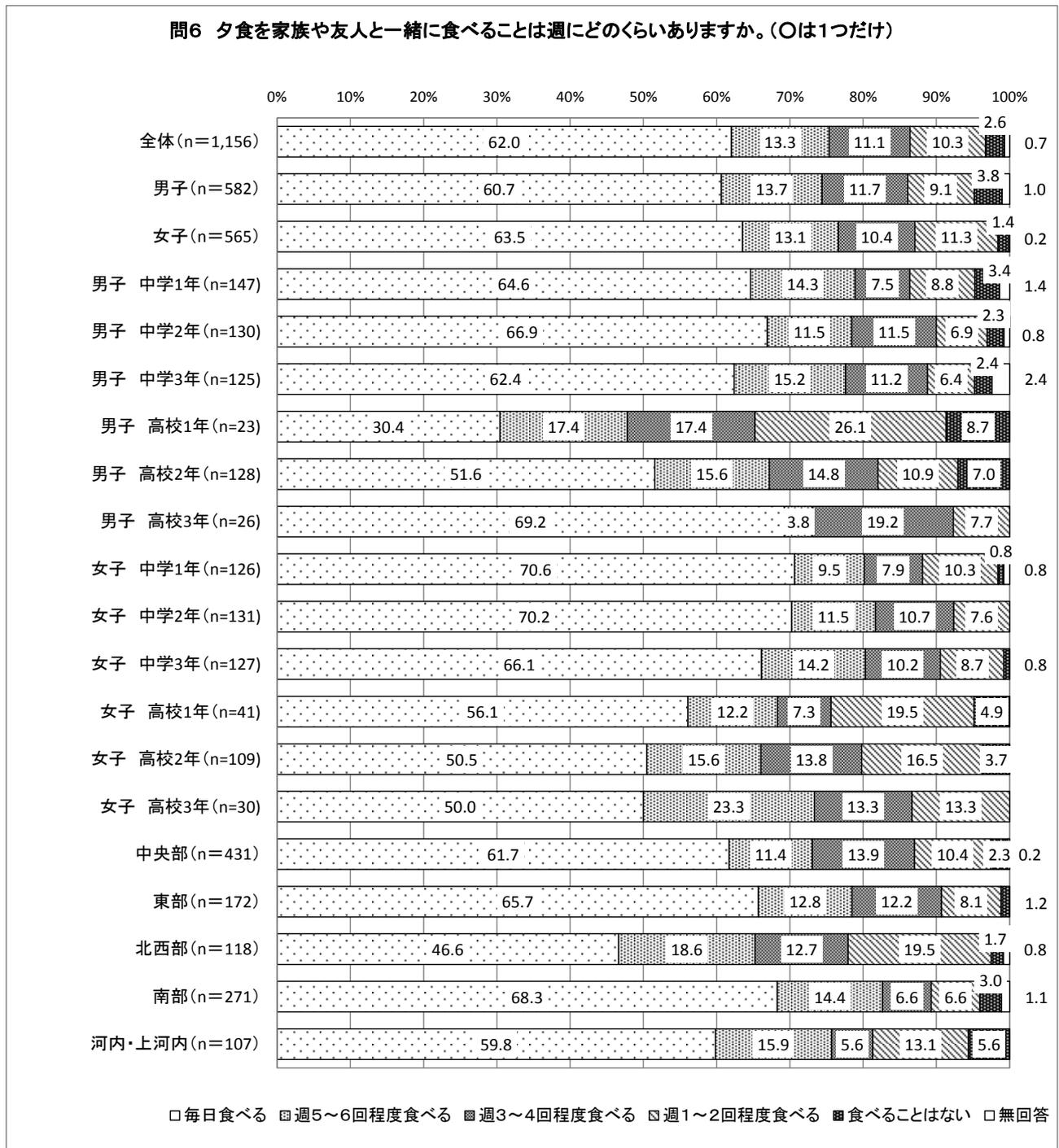
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「毎日食べる」の割合では、女子（63.5%）と男子（60.7%）で大きな差は見られない。

性・学年別では、女子は学年が低いほど「毎日食べる」の割合が高い傾向にある。また、「食べることはない」の割合は、「高校1年男子」（8.7%）「高校2年男子」（7.0%）で他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「毎日食べる」の割合が約6割、または6割以上となっているが、「北西部」では46.6%と、他地区に比べ低くなっている。（図表Ⅱ－2－14）

図表Ⅱ－2－14



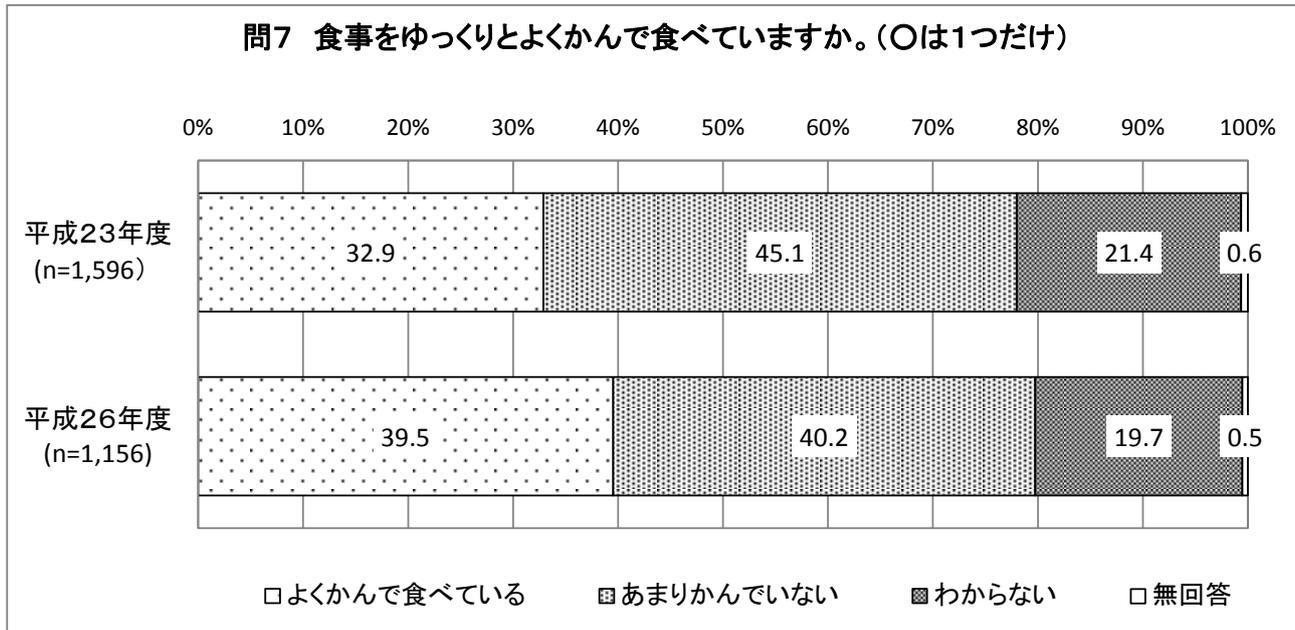
(7) 咀嚼

7 食事をゆっくりとよくかんで食べていますか。

◆「あまりかんでいない」が約4割

食事の時にゆっくりよくかんでいるか聞いたところ、「あまりかんでいない」(40.2%)が最も多くなっているが、平成23年度調査からは約5%減少している。また、「よくかんで食べている」が39.5%となっており、平成23年度調査からは約7%増加している。(図表Ⅱ-2-15)

図表Ⅱ-2-15



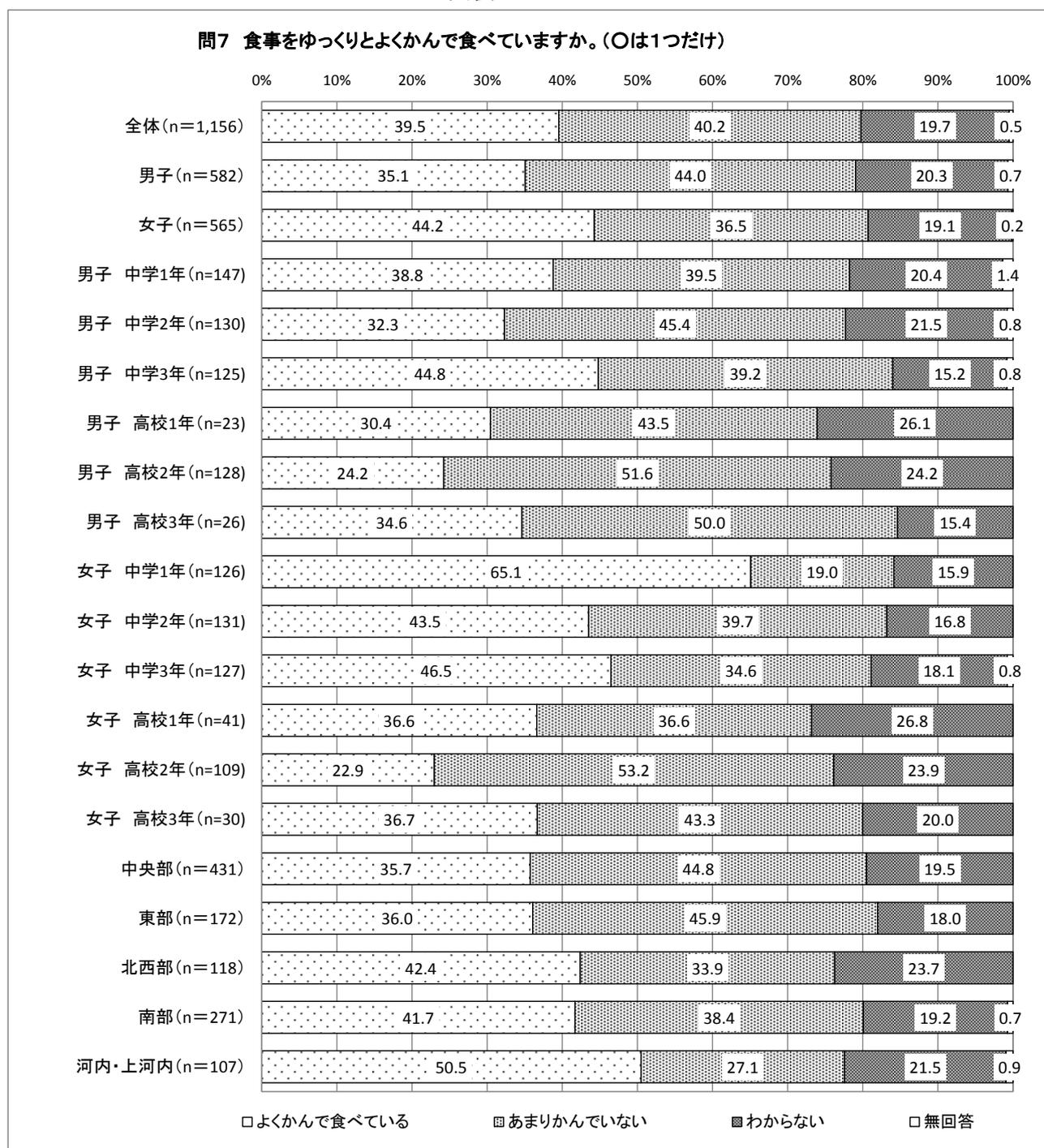
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「よくかんで食べている」の割合は、女子（44.2%）が男子（35.1%）より約9%高くなっている。男子は、「あまりかんでいない」（44.0%）が「よくかんで食べている」（35.1%）を上回っている。

性・学年別では、「高校3年男子」で「あまりかんでいない」（50.0%）が半数を占める。一方、中学生の女子は、全学年で「よくかんで食べている」が「あまりかんでいない」を上回っており、「中学1年女子」では65.1%と他の学年に比べ高い割合になっている。

居住地区別では、「中央部」と「東部」では「あまりかんでいない」の割合が高く、「北西部」,「南部」,「河内・上河内」では「よくかんで食べている」の割合が高くなっている。（図表Ⅱ－2－16）

図表Ⅱ－2－16



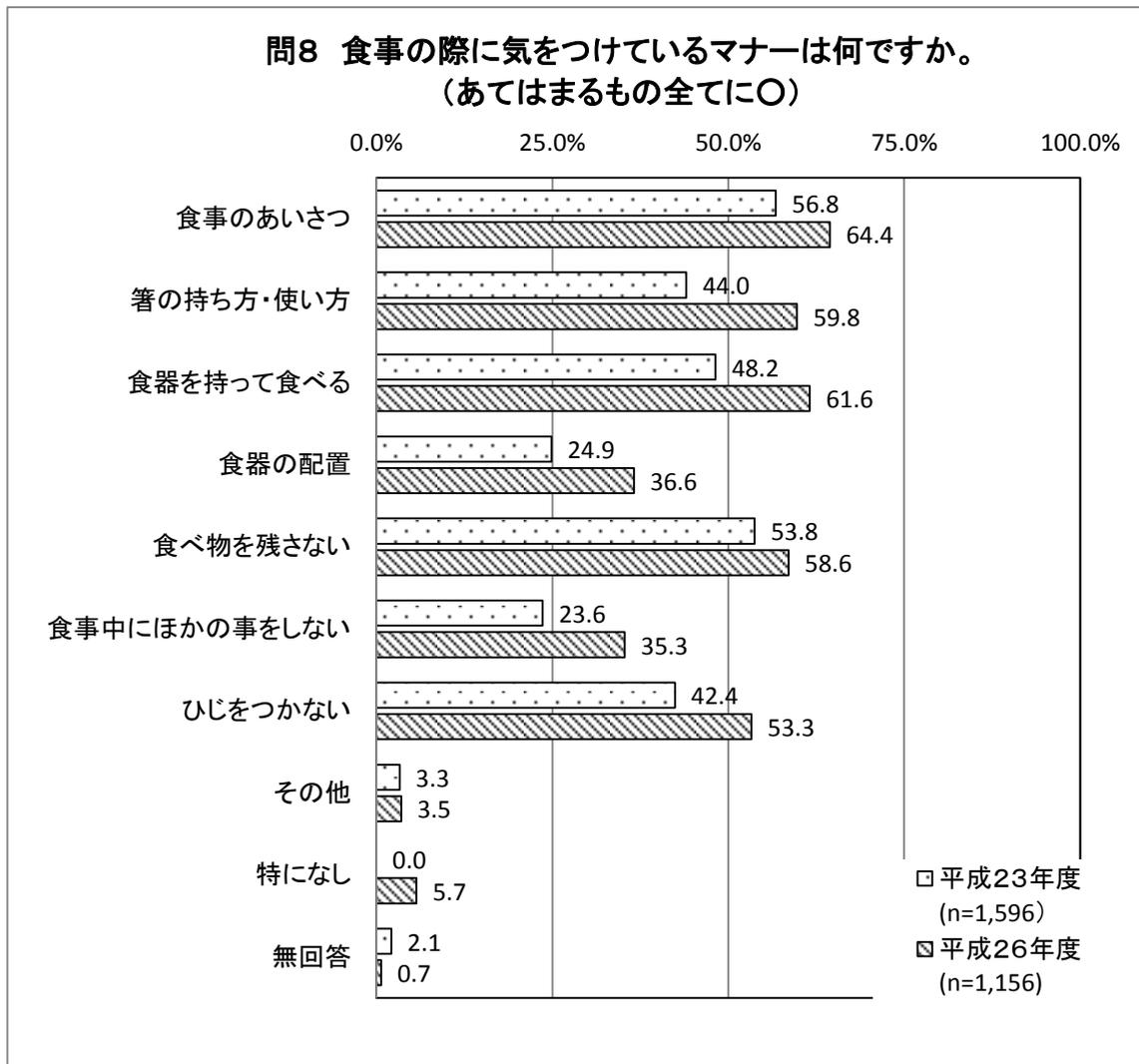
(8) 食事の際のマナー

8 食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食事のあいさつ」が6割超

食事の際に気をつけているマナーは、「食事のあいさつ」(64.4%)の割合が最も多く、次いで「食器を持って食べる」(61.6%)、「箸の持ち方・使い方」(59.8%)、「食べ物を残さない」(58.6%)となっている。(図表Ⅱ-2-17)

図表Ⅱ-2-17



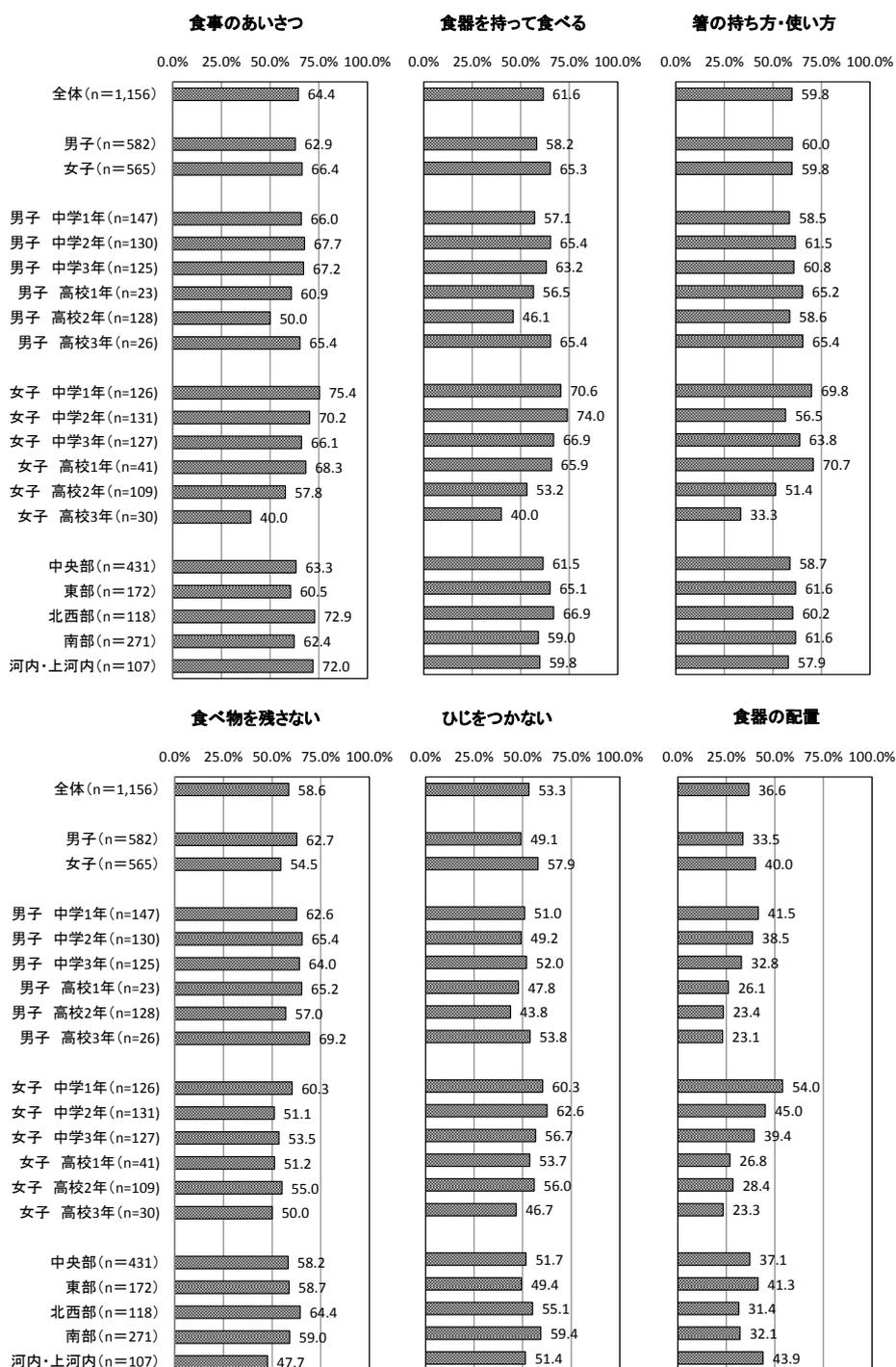
【性別／性・学年別／地区別】

上位6項目を性別で見ると、「食べ物を残さない」で男子（62.7%）の方が高くなっており、「食事のあいさつ」（66.4%）,「食器を持って食べる」（65.3%）,「ひじをつかない」（57.9%）では女子の方が高くなっている。

性・学年別では、男女とも「食事のあいさつ」,「食器の配置」は高学年になるほど低くなっている。「食器を持って食べる」は、男女とも「中学2年」が高くなっており、「中学2年女子」（74.0%）は7割を超えている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－2－18）

図表Ⅱ－2－18



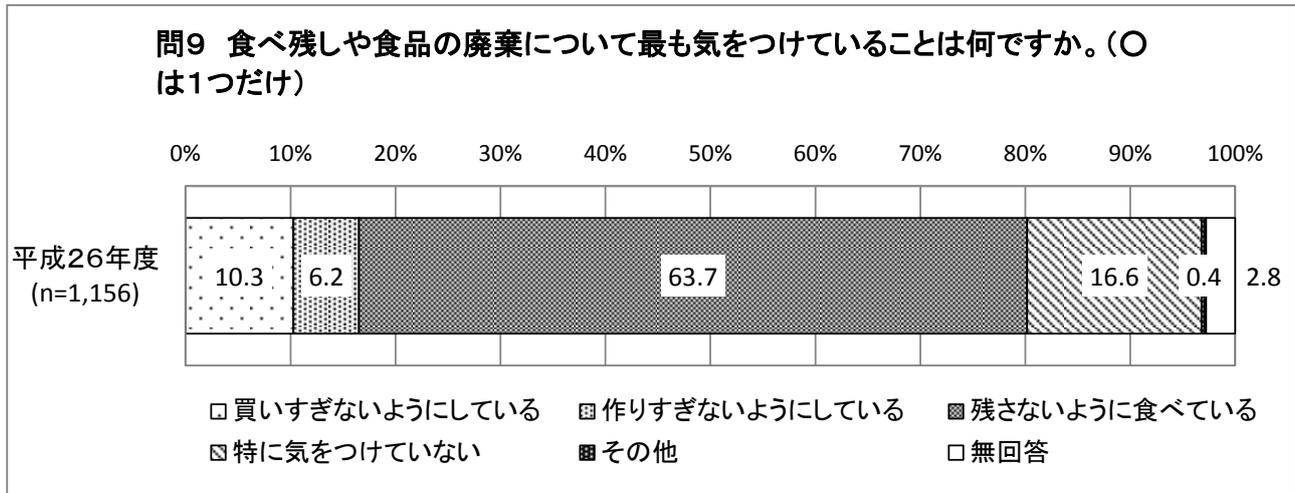
(9) 食べ残しや廃棄への関心

9 食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは何ですか。

◆「食べ物を残さない」が6割超

食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることについて聞いたところ、「残さないように食べている」(63.7%)の割合が最も高く、次いで「特に気をつけていない」(16.6%),「買いすぎないようにしている」(10.3%)となっている。(図表Ⅱ-2-19)

図表Ⅱ-2-19



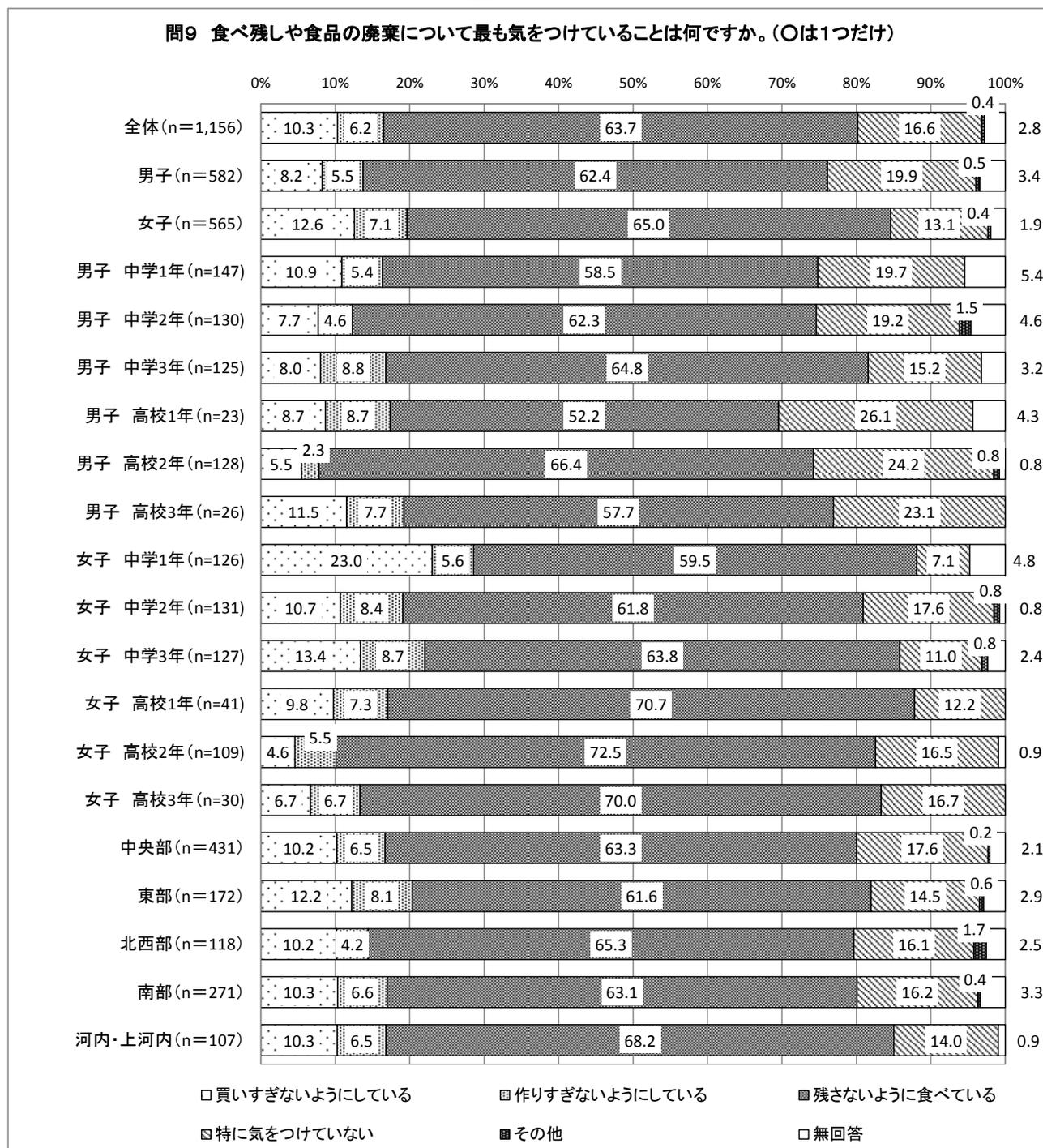
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女ともに「残さないように食べている」の割合が最も高くなっている。

性・学年別では、「中学1年女子」の「買いすぎないようにしている」(23.0%)の割合が他学年に比べ高くなっている。また、全学年において、「残さないように食べている」の割合が最も高くなっており、高校生の女子では、全学年で7割を超えている。一方、「特に気をつけていない」の割合は、高校生の男子で、全学年が2割を超え、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表Ⅱ-2-20)

図表Ⅱ-2-20



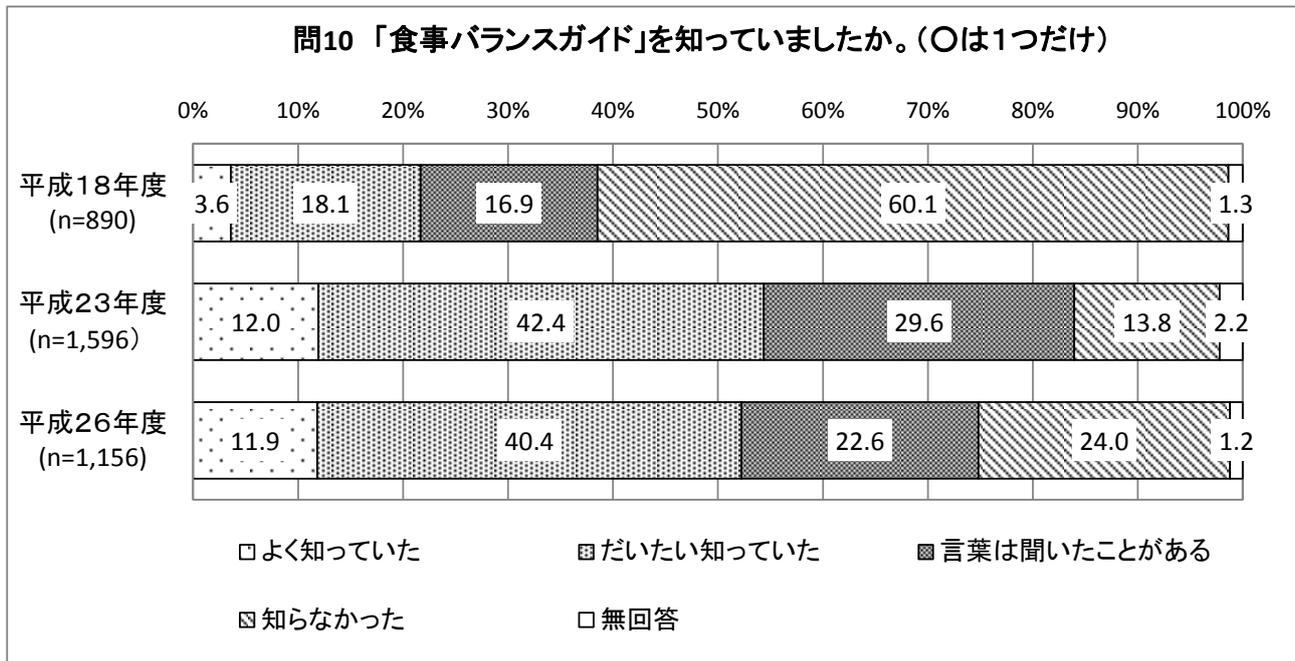
(10) 食事バランスガイドの認知度

10 「食事バランスガイド」を知っていましたか。

◆「だいたい知っていた」が約4割

「食事バランスガイド」の認知度は、平成18年度調査では「知らなかった」(60.1%)が6割を占めていたのに対し、本調査では24.0%まで減少したが、平成23年度調査(13.8%)と比較すると約10%の増加となっている。また、「知っていた」(「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計)は平成23年度調査と同じ水準で推移している。(図表Ⅱ-2-21)

図表Ⅱ-2-21



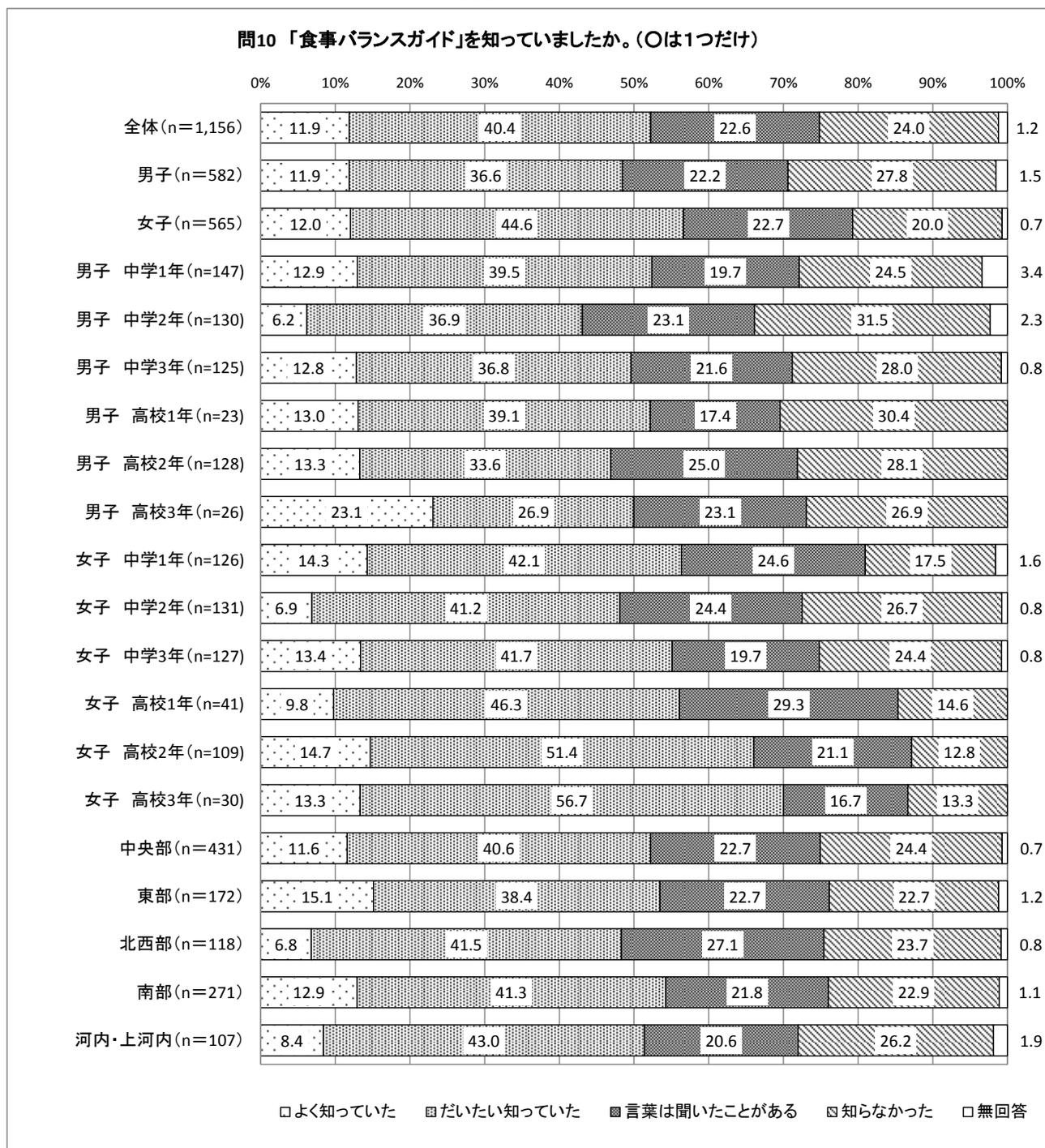
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）の割合は、女子（56.6％）が男子（48.5％）より約8％高くなっている。

性・学年別で見ると、「高校3年女子」の「知っていた」（70.0％）の割合が、最も高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「知らなかった」の割合が他地区に比べ若干、高くなっている。
（図表Ⅱ－2－22）

図表Ⅱ－2－22



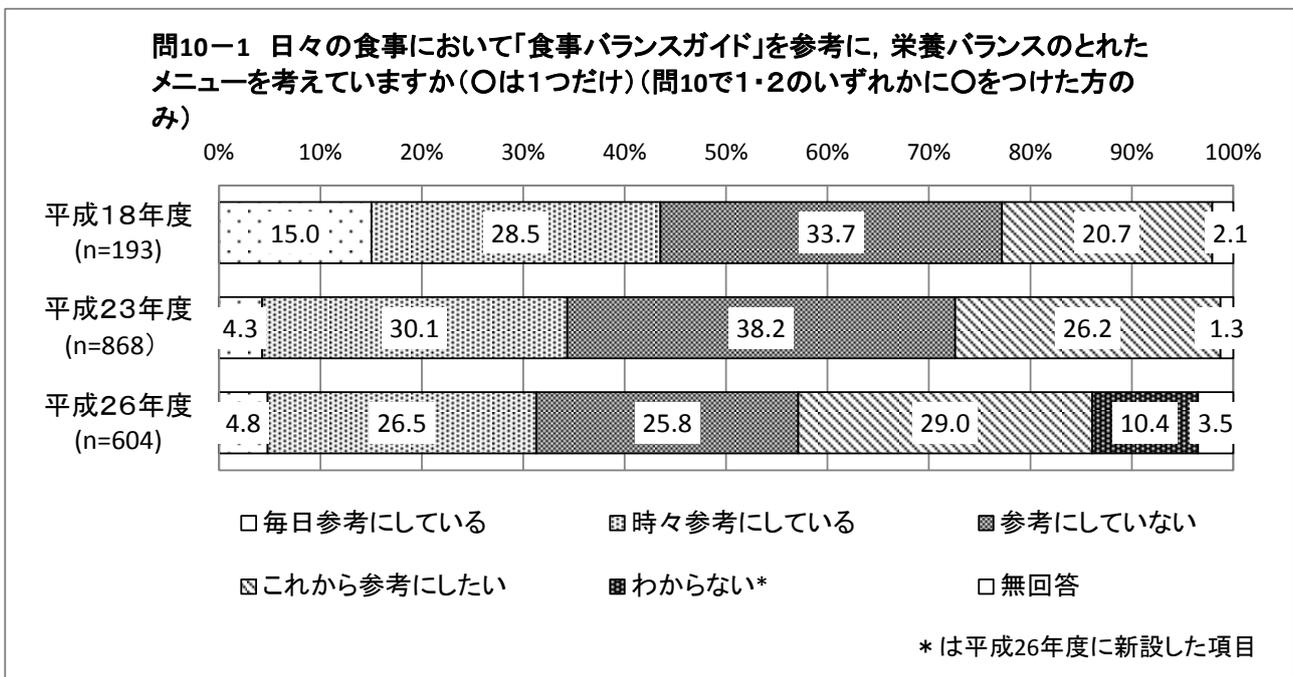
(10-1) 食事バランスガイドの利用度

10-1 日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。

◆「参考にしていない」が約3割

前問で、「食事バランスガイド」を「知っていた」と答えた人に、ガイドの利用度を聞いたところ、「参考にしていない」(25.8%)が約3割を占め、平成23年度調査(38.2%)からは減少している。また、「毎日参考にしている」(4.8%)は、平成18年度調査からは減少しているものの、平成23年度調査と比べると大きな変化はない。(図表Ⅱ-2-23)

図表Ⅱ-2-23



【性別／性・学年別／地区別】

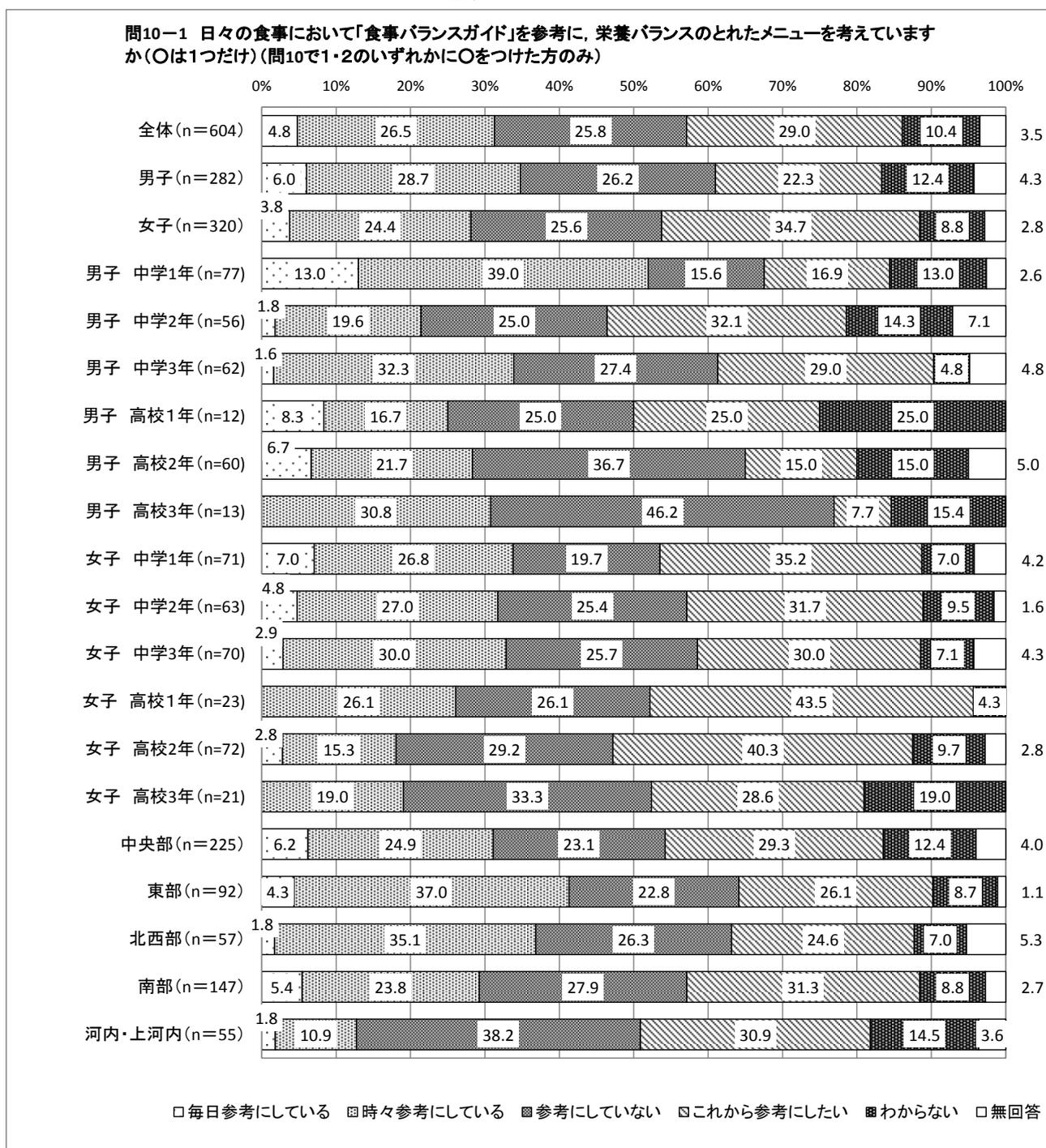
性別では、「参考にしている」（「毎日参考にしている」と「時々参考にしている」の合計）の割合で、男子（34.7%）が女子（28.2%）より約7%高くなっている。一方、「これから参考にしたい」の割合で、女子（34.7%）が男子（22.3%）より約12%高くなっている。

性・学年別では、「参考にしている」の割合で、「中学1年男子」（52.0%）が最も高く、「高校2年女子」（18.1%）が最も低く、その差は約34%となっている。

居住地区では、「河内・上河内」で「参考にしていない」の割合が、他地区に比べ高くなっている。

（図表Ⅱ－2－24）

図表Ⅱ－2－24



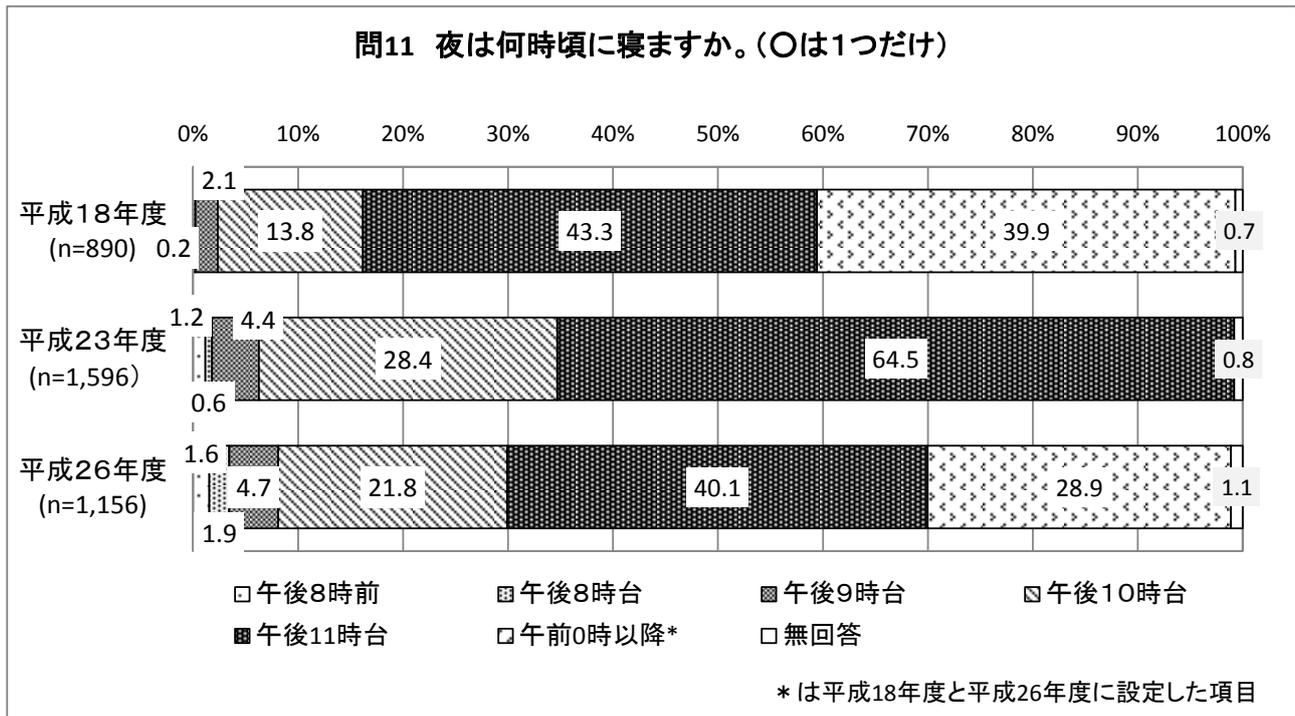
(11) 就寝時刻

11 夜は何時頃に寝ますか。

◆「午後11時台」、「午前0時以降」が減少

就寝時刻について、平成18年度調査では「午後11時台」、「午前0時以降」が83.2%と8割を超えていたのに対し、本調査では69.0%と減少している。(図表Ⅱ-3-1)

図表Ⅱ-3-1



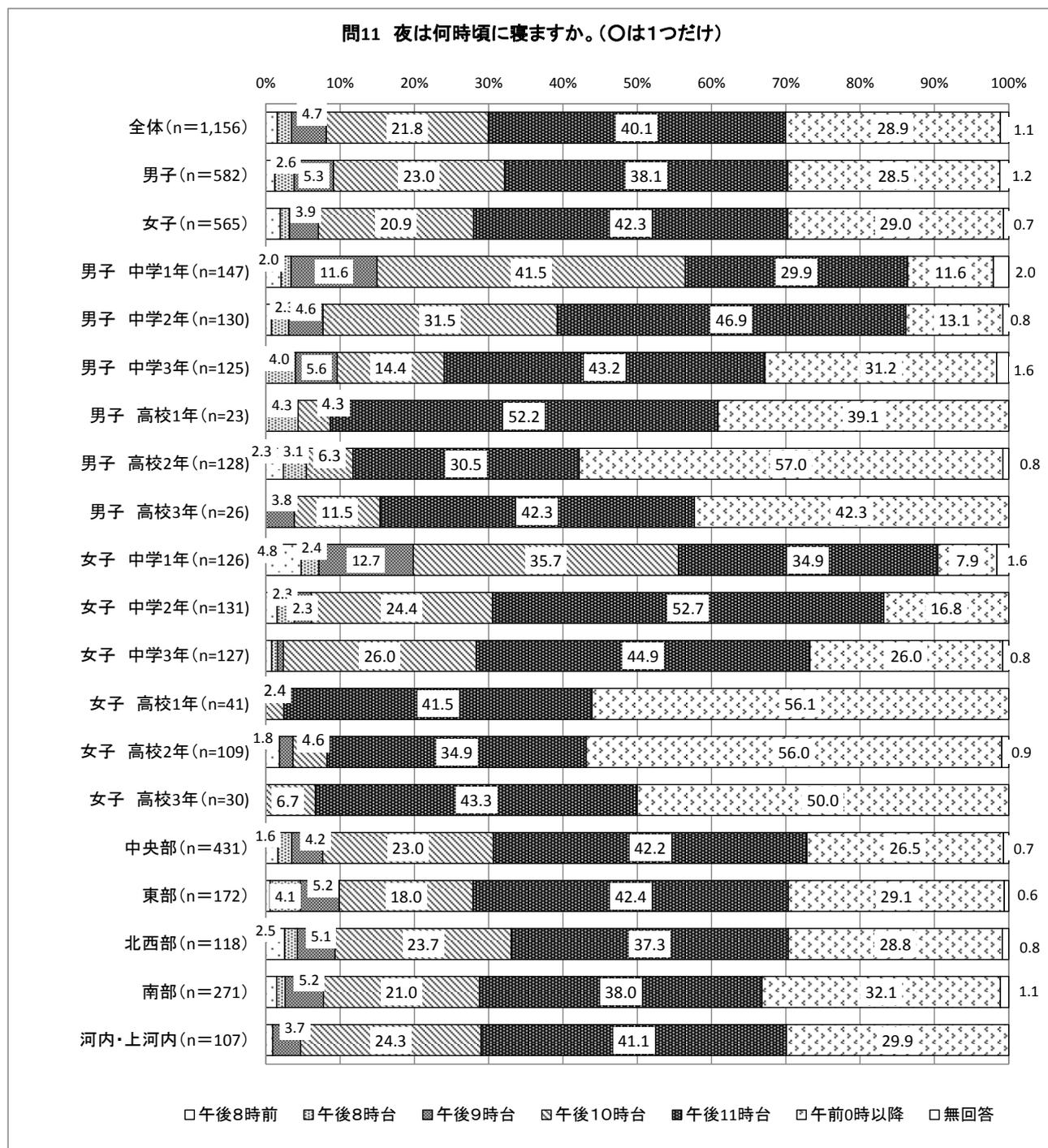
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「午後11時台」は、女子（42.3%）が男子（38.1%）より約4%高くなっている。

性・学年別では、男女とも学年が上がるに従い、「午後11時以降」（「午後11時台」と「午前0時以降」の合計）の割合が増加する傾向があり、高校生では、男女とも「午後11時以降」が約8割から9割を占めている。

居住地区別では、「東部」（71.5%）と「南部」（70.1%）、「河内・上河内」（71.0%）で、「午後11時以降」が約7割を占めている。（図表Ⅱ－3－2）

図表Ⅱ－3－2



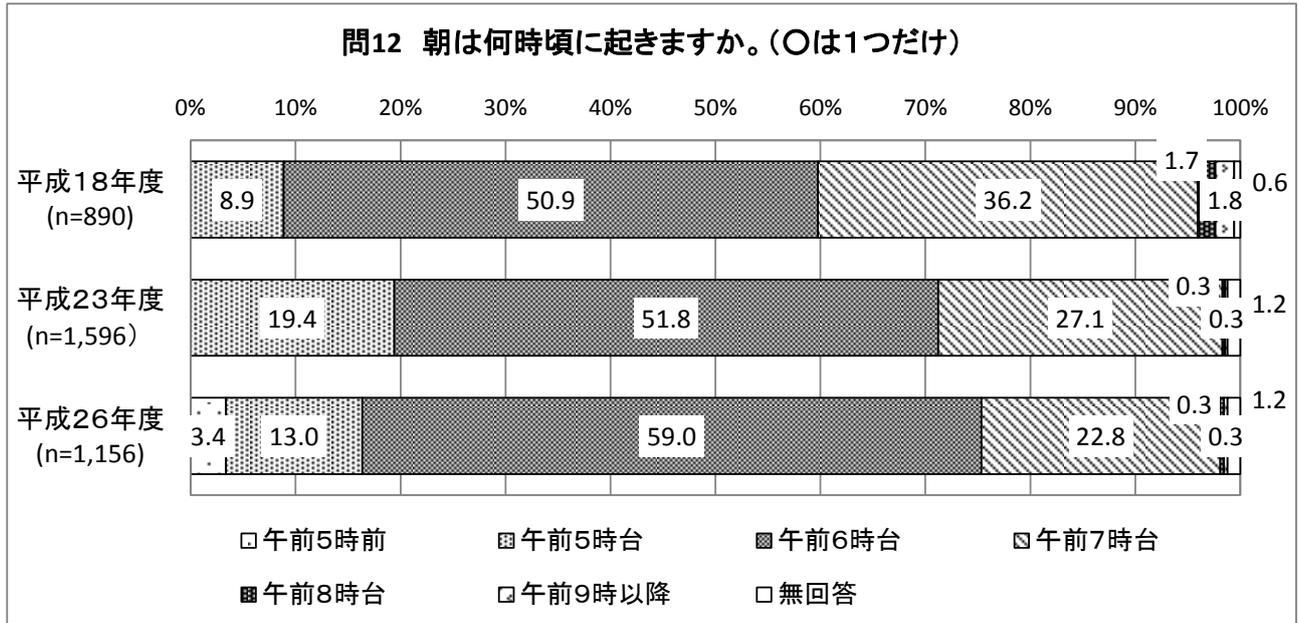
(12) 起床時刻

12 朝は何時頃に起きますか。

◆「午前6時台」が約6割

起床時刻は、「午前6時台」(59.0%)が約6割を占めている。また、「午前7時台」(22.8%)が、平成18年度調査(36.2%)から13%減少している。(図表Ⅱ-3-3)

図表Ⅱ-3-3

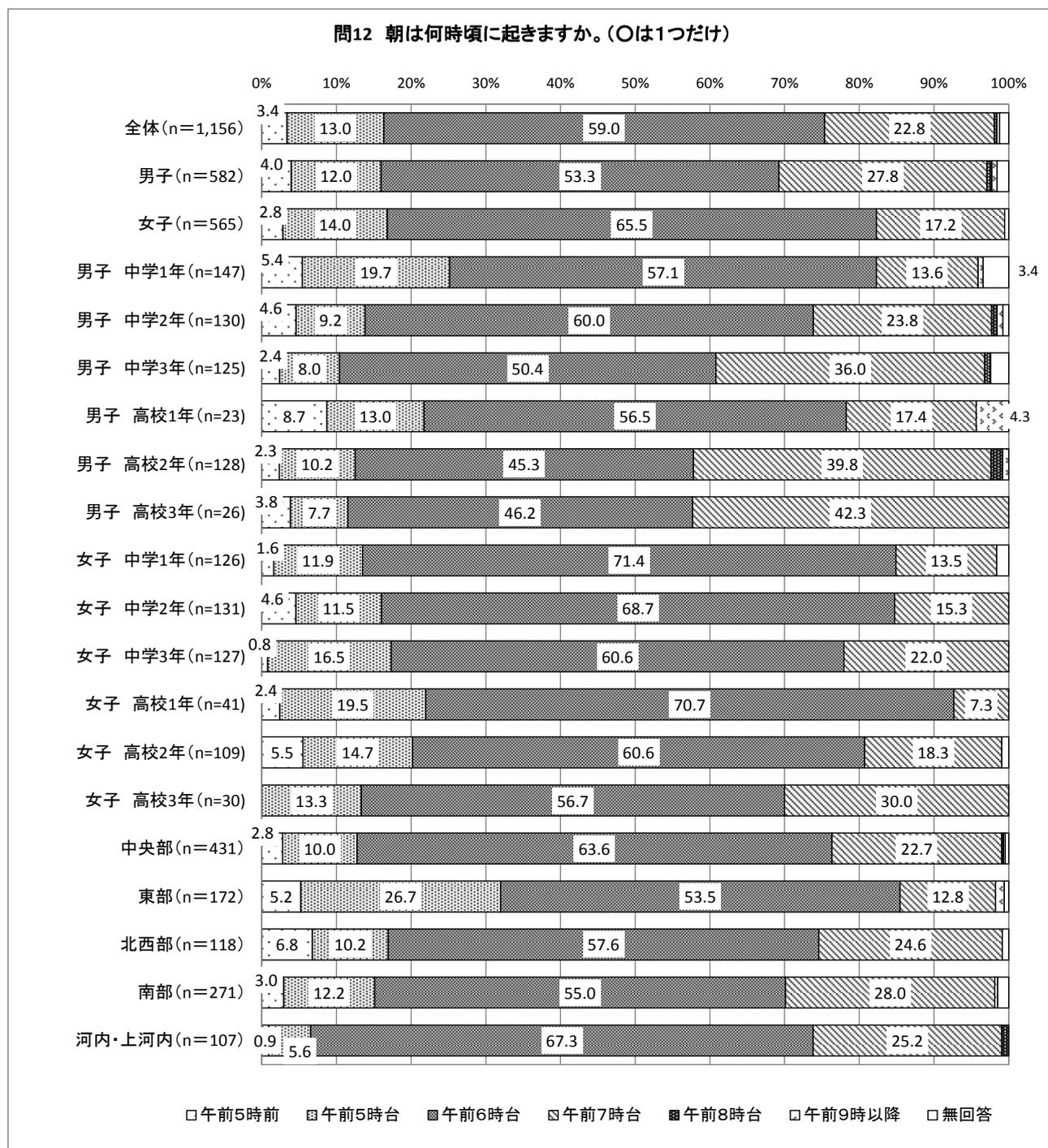


【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「午前6時台」は、女子（65.5%）が男子（53.3%）より約12%高くなっている。
 性・学年別では、男女ともに「午前6時台」の割合が高く、「中学1年女子」（71.4%）で最も高い割合となっている。

居住地区別では、「東部」で「午前5時台」の割合が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅱ－3－4）

図表Ⅱ－3－4



(13) メタボリックシンドロームの認知度

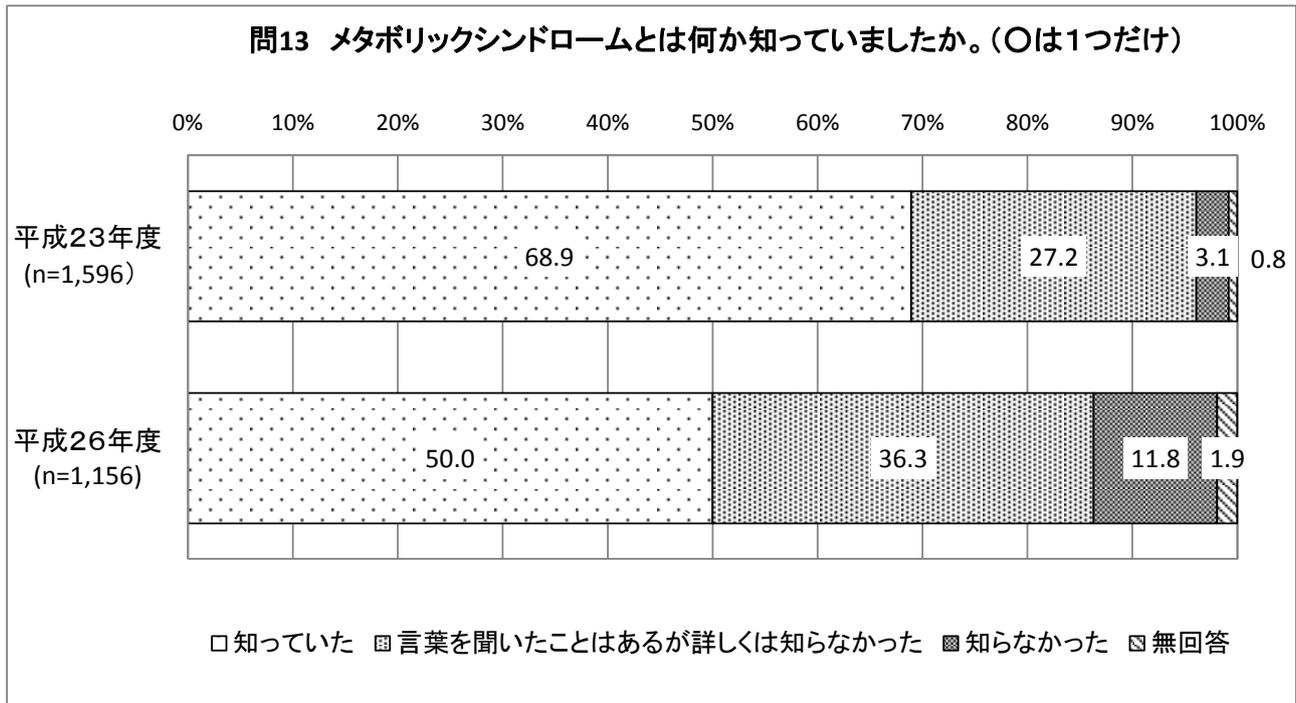
13 メタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が半数

メタボリックシンドロームの認知度は、「知っていた」(50.0%)が半数を占めたが、平成23年度調査からは約20%の減少となった。また、「知らなかった」については約9%の増加となった。

(図表Ⅱ-4-1)

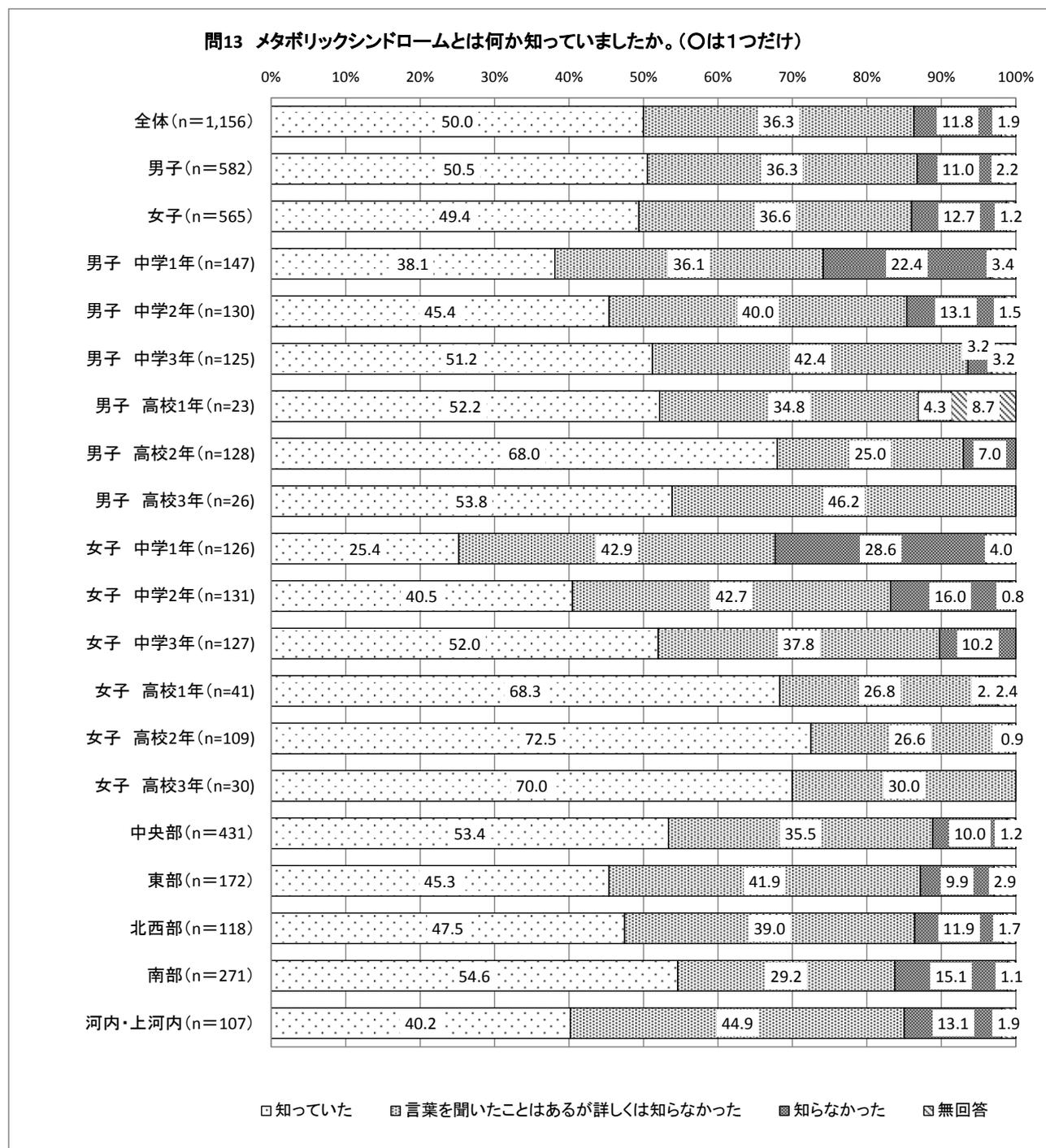
図表Ⅱ-4-1



【性別／性・学年別／地区別】

性・学年別では，男女とも学年が上がるほど，「知っていた」の割合が高くなる傾向にある。居住地区別では，「中央部」，「南部」で「知っていた」が半数を占める。(図表Ⅱ－４－２)

図表Ⅱ－４－２



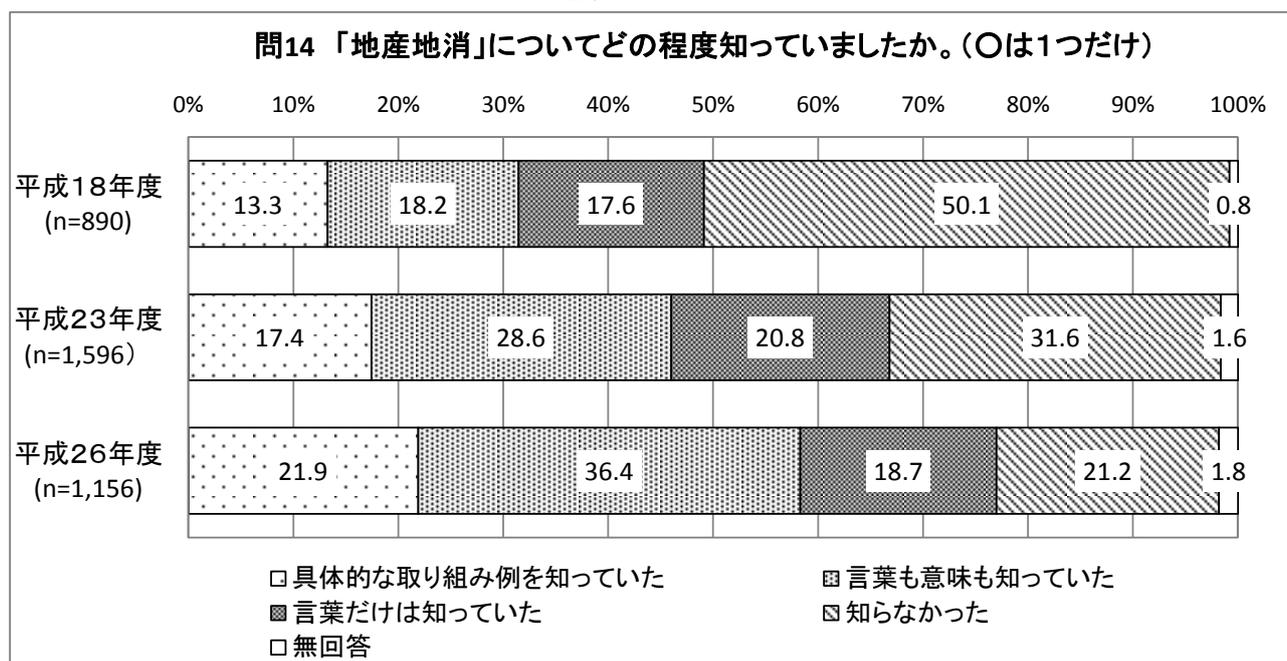
(14) 地産地消の認知度

14 「地産地消」についてどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」割合が増加

「地産地消」については、「知らなかった」が、平成18年度調査では50.1%に上っていたのに対し、本調査では21.1%と約29%の大幅な減少となった。「知っていた」（「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）については、平成18年度調査では49.1%、平成23年度調査では66.8%、平成26年度調査では77.0%と経年的に見て増加傾向にある。（図表Ⅱ-5-1）

図表Ⅱ-5-1



【性別／年齢別／地区別】

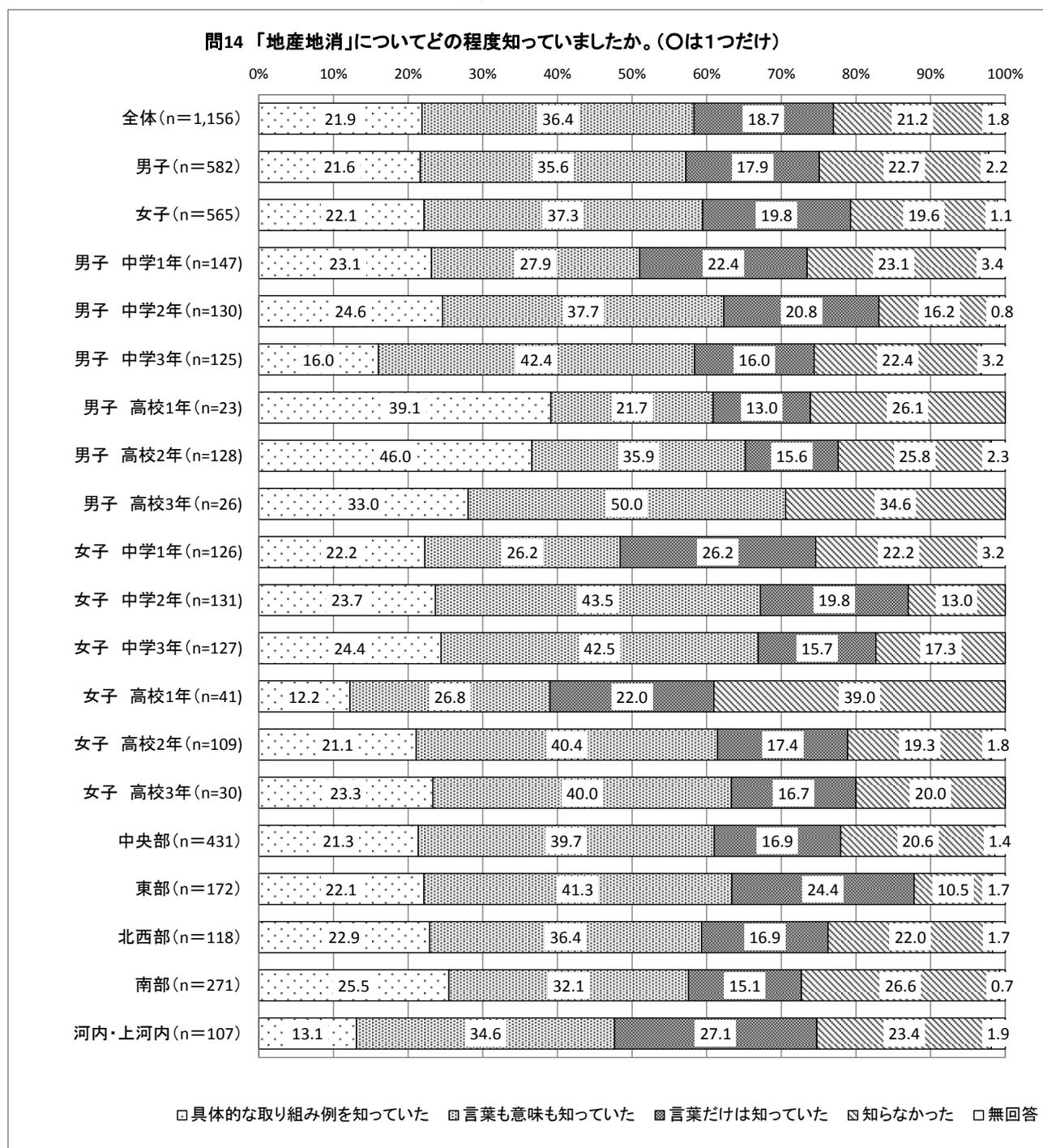
性別では、「知っていた」（「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）の割合は、女子（79.2%）が男子（75.1%）よりも約4%高くなっている。

性・学年別で見ると、「知らなかった」の割合が、「高校3年男子」、「高校1年女子」で3割を超えており、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「知っていた」（47.7%）が他地区に比べ低くなっている。

（図表Ⅱ－5－2）

図表Ⅱ－5－2



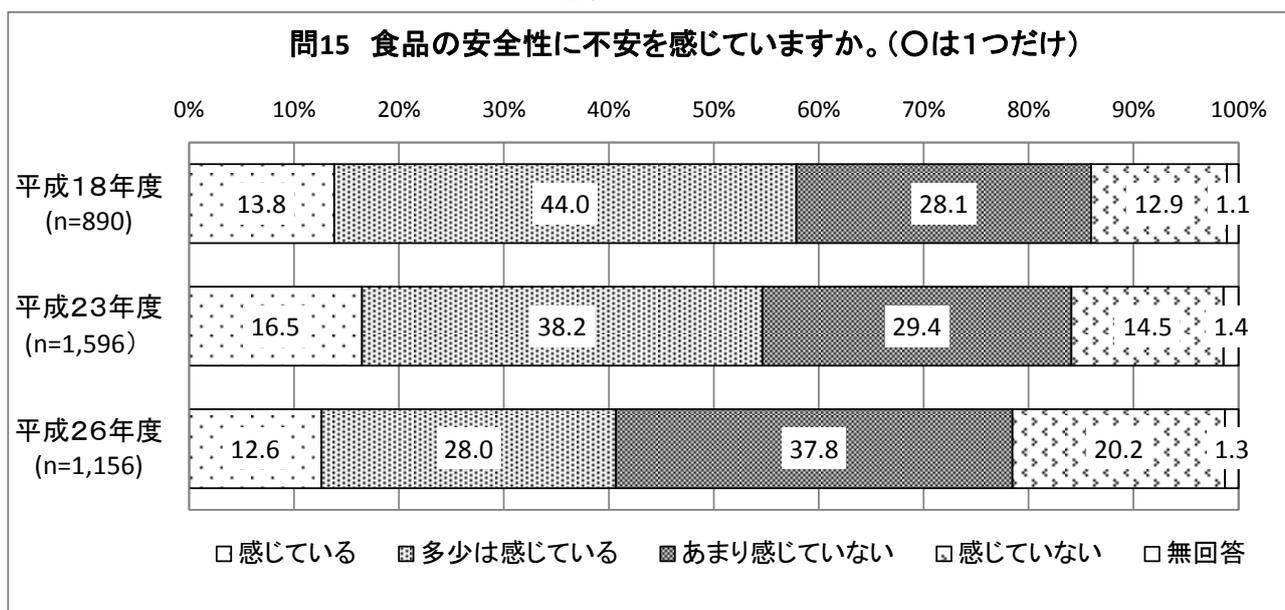
(15) 食品の安全性への不安

15 食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が減少

食品の安全性への不安は、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は40.6%と、平成18年度調査、平成23年度調査からは約14%減少している。一方、「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）は58.0%と約6割を占める。（図表Ⅱ-6-1）

図表Ⅱ-6-1



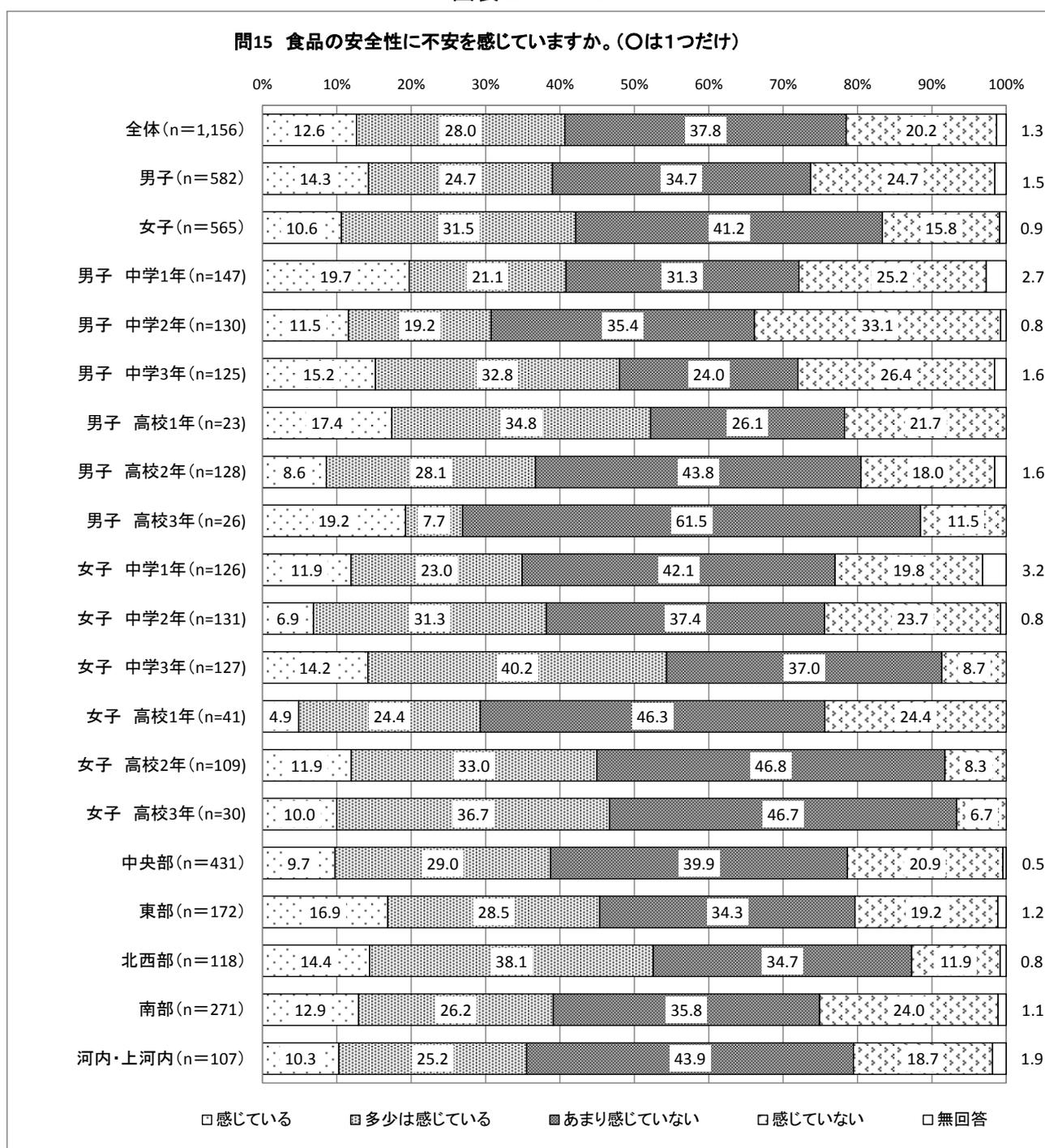
【性別／年齢別／地区別】

性別では、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、女子（42.1%）が男子（39.0%）より約3%高くなっている。

性・学年別では、「中学3年女子」、「高校1年男子」で「感じている」の割合が5割を占め、その他の学年では「感じていない」（「あまり感じていない」、「感じていない」の合計）の割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」で「感じている」の割合が52.5%と他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅱ－6－2）

図表Ⅱ－6－2



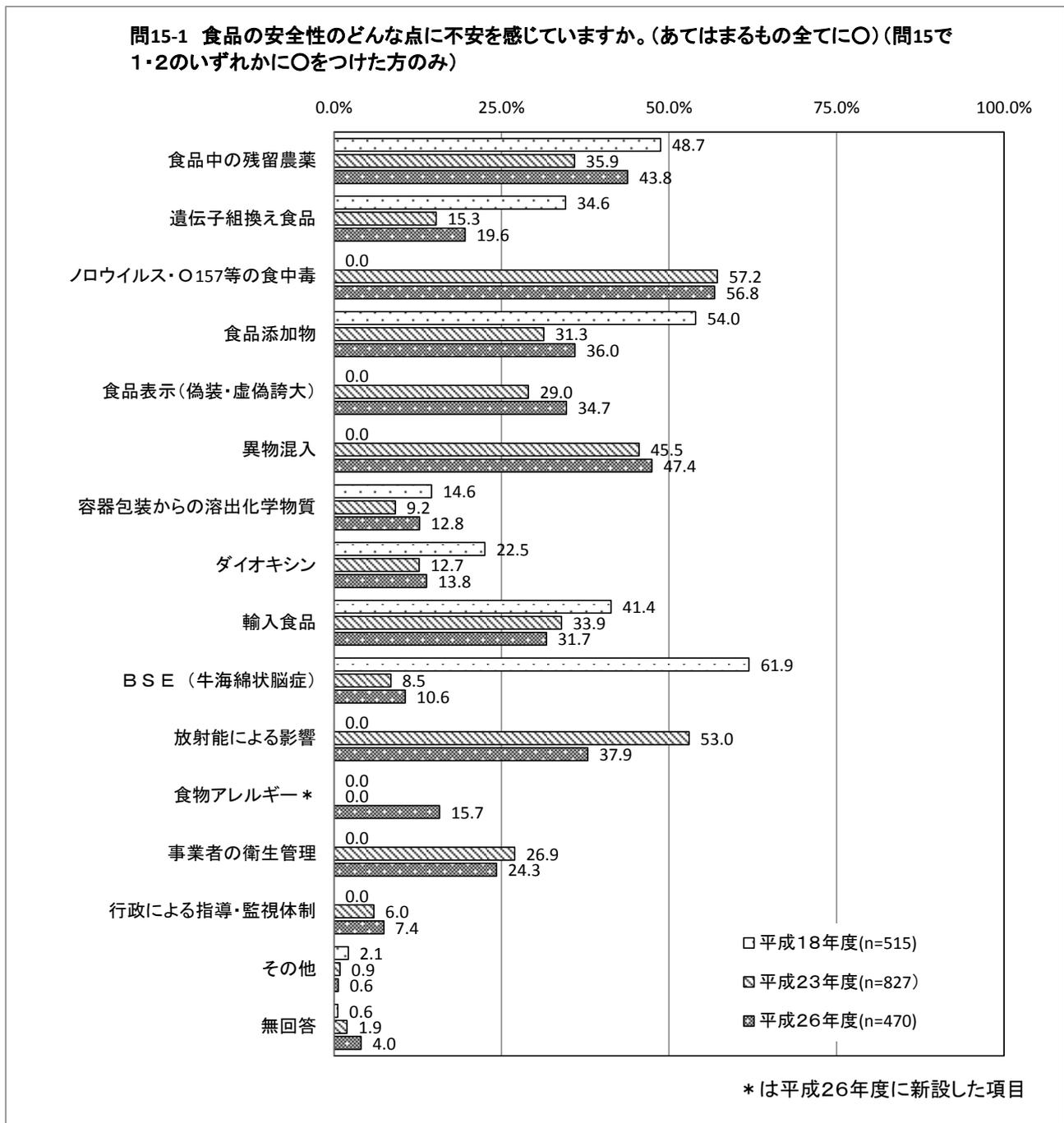
(15-1) 不安の内容

15-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「ノロウイルス・O157等の食中毒」が5割超

前問で食品の安全性に不安を「感じている」と答えた人に、不安な点を聞いたところ、「ノロウイルス・O157等の食中毒」が56.8%と最も高い割合となっている。次いで「異物混入」(47.4%)、「食品中の残留農薬」(43.8%)、「放射能による影響」(37.9%)と続く。平成18年度調査で最も多かった「BSE(牛海綿状脳症)」は10.6%まで減少し、また、平成23年度調査で5割を超えていた「放射能による影響」(52.8%)は37.9%に減少している。(図表Ⅱ-6-3)

図表Ⅱ-6-3



【性別／年齢別／地区別】

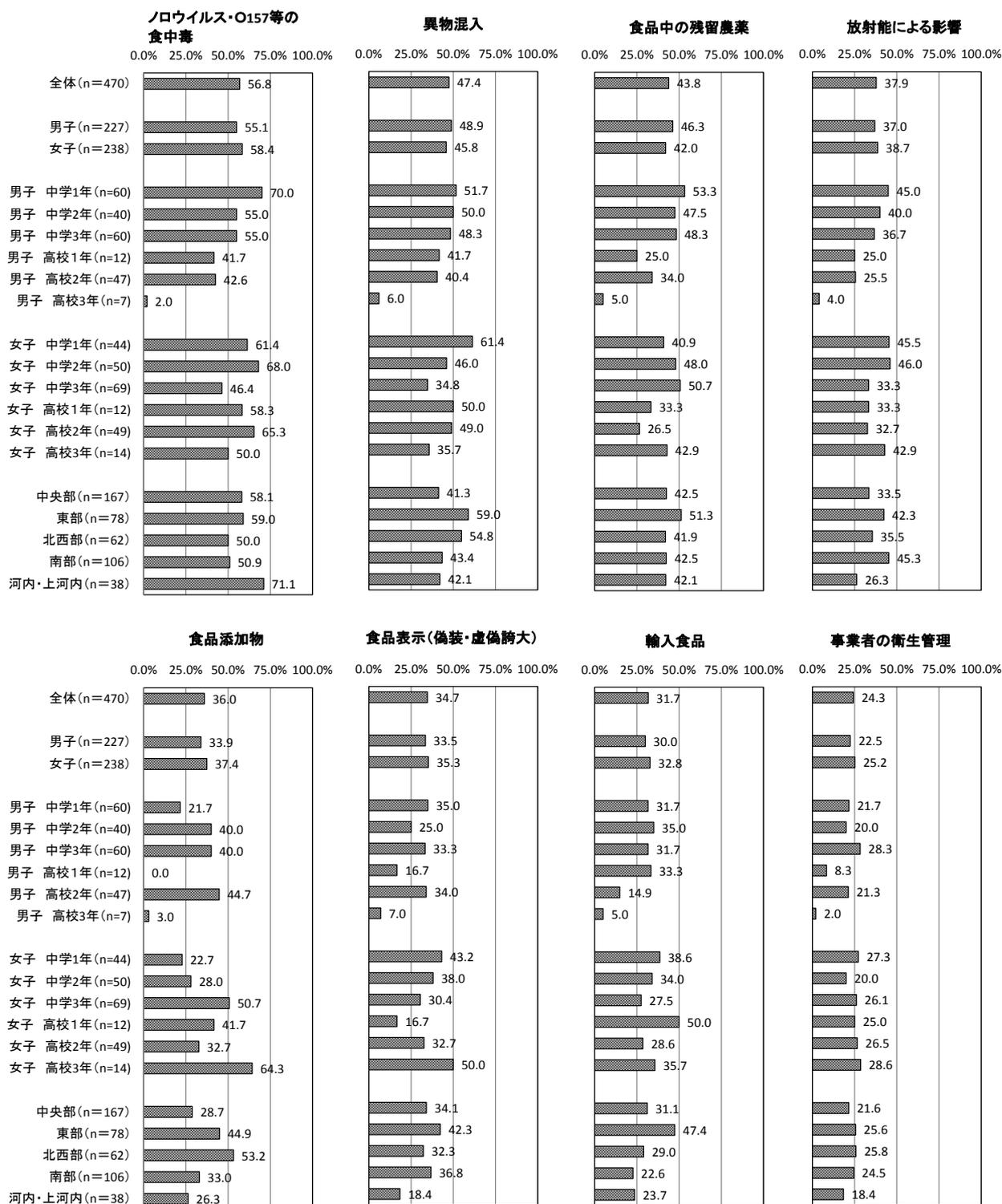
上位8項目を性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別では、どの学年においても「ノロウイルス・O157等の食中毒」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「ノロウイルス・O157等の食中毒」が7割を超えている。

(図表Ⅱ－6－4)

図表Ⅱ－6－4（上位8項目）



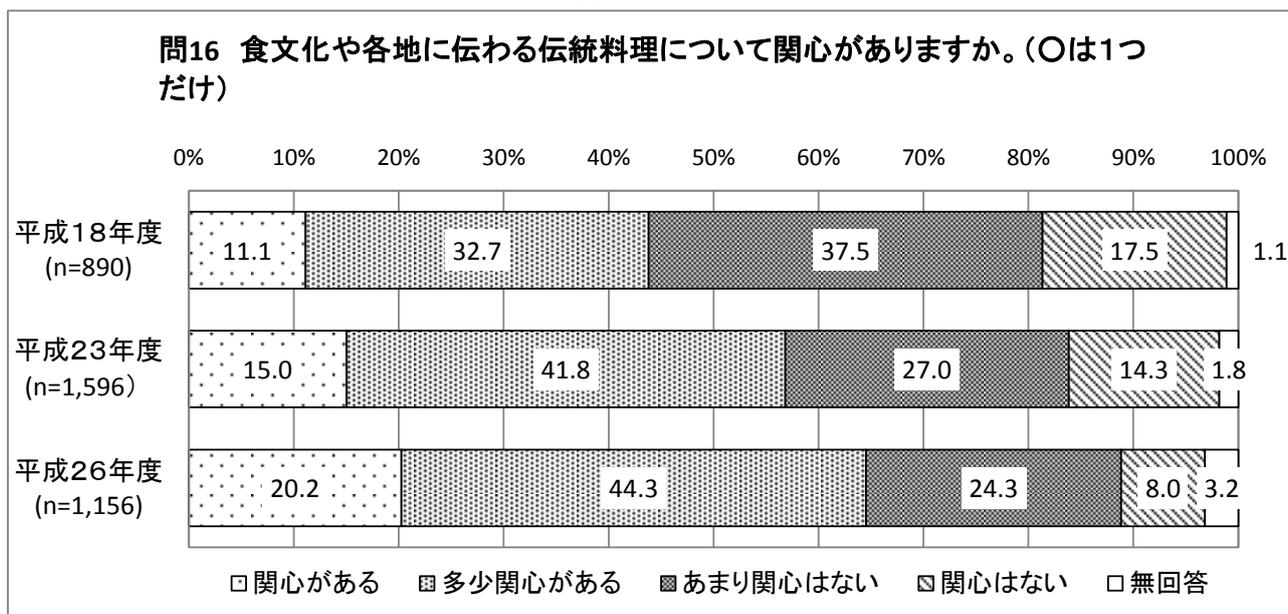
(16) 食文化や伝統料理への関心度

16 あなたは食文化や古くから各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。

◆「関心がある」が6割超

食文化や伝統料理への関心度は、平成18年度調査では「関心がある」（「関心がある」と「多少関心がある」の合計）が43.8%と半数以下であったが、平成23年度調査では56.8%、平成26年度調査では64.5%と経年的に見て増加傾向にある。（図表Ⅱ－7－1）

図表Ⅱ－7－1



【性別／年齢別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「多少関心がある」の合計）は、女子（69.3%）が男子（59.8%）を約10%上回っている。

性・学年別では、学年が上がるほど「関心がある」の割合が低くなる傾向にあり、「高校3年男子」では「関心はない」（「あまり関心はない」と「関心はない」の合計）の割合が半数を占める。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－7－2）

図表Ⅱ－7－2

